バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.71*

2016年8月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

ヴェントゥーノ Tokyo （JR 渋谷駅ハチ公口徒歩3分）

渋谷センター街、Forever21 の B1 階にたたずむ、広々と開放感のあるスタイリッシュなイタリアン＆バール!!

コースはお一人様2500円～合コン、パーティー、同窓会、個室もあります。

住 渋谷区宇田川町24番1号B1F

交 JR 渋谷駅（ハチ公口）・地下鉄半蔵門線渋谷駅徒歩約 3 分

営 月～木 11:30～23:30　金・土 11:30～24:00
日・祝 11:30～23:00

休 年中無休

☎03-3477-1199

目　　次

○ リオ・オリンピック女子日本代表大健闘　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　格上国を撃破し、８位入賞

○ 女子オリンピアンが語るオリンピック（その１）　・・・・・歴史部・・・　９

○ リオ・オリンピック男子世界最終予選　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
　日本代表・予選ラウンドで敗退

○ 全日本シニア交歓大会 in YOYOGI（第９回）開催・・・・・普及部・・・１９

○ 中学生初心者向け定例クリニック開催　・・・・・・総務部・普及部・・・３２

○ 人物抄
　阿部　敏一郎さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

○ 会員だより
　あれから５０年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉田 俊幸・・・３８
　今日までそして明日から・・・・・・・・・・・・・・・ 田宮　 秩・・・４０
　バスケットボール湘南だより（その１５）・・・・・・ 中瀬 達雄・・・４２

○ 各団体役員改選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４

○ 訃報・事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

○ プラザこぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７

リオ・オリンピック女子日本代表大健闘

格上国を撃破し、８位入賞

［編集部］

第３１回リオ・オリンピックは、現地時間で８月５日開幕、ＦＩＢＡ世界ランキング１６位の女子日本代表（ちなみに、中国は８位、韓国は１２位）は、予選ラウンドＡグループでランキング格上の強豪国を次々と破って４位となり、８チームで競わられる決勝トーナメントに進出した。

６チーム総当たりで行われた予選ラウンドＡグループで、日本は３勝２敗であったが同じ３勝２敗のチームが３チームとなり、チーム間の得失点差で４位となった。このため、決勝トーナメント１回戦でＢグループ１位の世界最強国アメリカと対戦、残念ながらベスト４進出はならなかった。

しかしながら、世界ランキング１６位の日本代表が、持ち前のスピードバスケットによって世界ランキング４位のフランス、７位のブラジル、１０位のベラルーシを破ったこと、世界ランキング２位のオーストラリアとは、第４ピリオド残り７分余りまでリードしていながらその後逆転されたものの、大接戦を演じたことなど、日本代表の健闘は大いに称賛する価値がある。

上背や体格で劣る日本代表が、そのスピードと技術によって世界と対等に戦ったことは、日本のバスケットボールのこれから進むべき道を示したのではないだろうか。残念ながら男子は世界に全く歯が立たなかったが、小柄な日本人でも努力次第では国際的に通用することが証明された。内海ヘッドコーチをはじめ選手諸君、そしてスタッフの方々に絶賛の拍手を贈りたい。ご苦労さまでした。

日本が対戦した各試合について、ＪＢＡの公表資料と写真、画像放映を基に以下に記述する。

試合時間は全て現地時間であり、日本時間に換算するには１２時間プラスされる。

８月６日　１９時４５分　ベラルーシ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	26	15	19	17	77
ベラルーシ	21	19	20	13	73

内海ヘッドコーチは組み合わせが決まった時から「初戦のベラルーシ戦が鍵」と言明していたが、試合はその通りの大接戦となり、追いつ追われつの展開。その中での第４ピリオド、日本の執念ともいえるプレーによって一歩抜け出し、本当に貴重な１勝となった。

第１ピリオド、日本は、#12 吉田のアシストによって#6 間宮が先制点を挙げた後、#10 渡嘉敷のミドルや#7 栗原の３Ｐシュートによって好調な立ち上がりとなる。相手ベラルーシも早いパスからのシュートや確率高い３Ｐシュートによって対抗するが、日本は果敢な攻撃と#7 栗原の３Ｐシュートによって抜け出し、５点リードで終わる。このリードが最後の勝利への貴重な決め手となる。

第２ピリオド、ベラルーシは 196cm のセンターを軸に高さを生かして加点するが、日本も#8 高田の連続得点と#4 近藤の３Ｐシュートなどで残り３分に３９－３５とリードする。その後、ベラルーシが３Ｐシュートなどで得点、日本も#14 本川がドライブインシュートを決めて得点し、４１－４０と日本が僅かなリードで前半を終える。

第３ピリオド、日本は開始早々#7 栗原の３Ｐシュートが決まってリードを広げたが、ベラルーシも３Ｐシュートなどの猛攻で１１連続得点し、４９－５３と逆転される。しかし、日本も#7 栗原の連続３Ｐシュートなどで追いつき１点を争う大接戦となる。終盤、日本は#10 渡嘉敷や#8 高田の得点で抜け出したかに見えたが、ベラルーシも３Ｐシュートで対抗、結局６０－６０の同点でこのピリオドを終える。

第４ピリオド、#13 町田の速攻から得点した日本は僅かながらリードする展開だったが、５分間で２ゴールしか入らない。対するベラルーシも１ゴールのみとお互いに得点が伸びない。残り４分を切り、ベラルーシが３Ｐシュートを決めて逆転するが、日本も#10 渡嘉敷のシュートと#11 長岡の３Ｐシュートで再びリードを奪う。その後、一進一退のゲーム展開となるが、残り１分、#12 吉田が狙いすましたスチールから速攻を決めて抜け出し、ファウルゲームを仕掛けるベラルーシに対して#12 吉田が確実にフリースローを決め、２ゴール差でタイムアップ。予選ラウンド初戦、日本は強豪を倒し貴重な勝ち星を挙げた。

８月８日　１７時３０分　ブラジル戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	19	28	26	9	82
ブラジル	20	13	19	14	66

第１ピリオド、日本は#6 間宮のフリースローと#10 渡嘉敷のジャンプシュートで好スタート、対するブラジルも高さとパワーでインサイドを攻め、オフェンスリバウントなども決められる。しかし、日本は、#12 吉田の好アシストや#7 栗原の３Ｐシュートなどで対抗し、１９－２０と１点のビハインドでこのピリオドを終える。

第２ピリオドに入るとゲームの様相が一変する。日本は開催国の激しい応援を相手に、

#10 渡嘉敷のバスケットカウントを皮切りに、#8 高田のシュートなどで一気に逆転、守っては目まぐるしいゾーンディフェンスで相手の攻撃を苦しめ、ブラジルを５分間無得点に抑える。その後も日本は、#13 町田の連続速攻や#12 吉田がスチールからの速攻を決め、ガード陣の大活躍で更にリードを広げ、４７－３３と１４点のリードを奪って前半を終える。

第３ピリオド、日本は、出だし#10 渡嘉

敷、#12 吉田のシュートに#7 栗原の３Ｐシュートと続く連続ゴールで、５６－３３と一気に相手を突き放す。ブラジルはパワープレーによるバスケットカウントで盛り返そうとするが得点は伸びず、日本が７３－５２と２１点のリードでこのピリオドを終える。

第４ピリオド、日本が大量リードに安心したせいか攻撃が単調となって得点が伸びない中、ブラジルがドライブインなどで得点する。日本は、ファウル覚悟の厳しいディフェンスで相手を苦しめながらリードを守ろうとする。その中で残り３分、日本は、交代で入った#4 近藤が３Ｐシュートを決め、８２－６２と再び２０点リードと引き離したのち、ゆっくりした攻めで時間を稼ぐ。残り１分を切ったところで日本はベンチメンバー全員を交代出場させる余裕。その後、日本は、１分間ノーゴールだったがブラジルも４得点に終わり、結局８２－６６で世界ランキング７位のブラジルに快勝した。

８月９日　１７時４５分　トルコ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	9	14	16	23	62
ト ル コ	24	14	19	19	76

予選ラウンドで第１戦に続いて鍵となるトルコ戦、日本はトルコのディフェンスに手を焼き、思わぬ出だしとなった。

第１ピリオド、トルコに先制点をあげられた日本は、#10 渡嘉敷がバスケットカウントを決めたものの、それからトルコに全員で走り回られ、ノーマークを作られてミドルシュートを決められたうえ３Ｐシュートをも決められて、５－１８と引き離される。タイムアウトで立て直しを図った日本だったが、その後もノーマークチャンスが作れないためシュートが決まらず９－２４と１５点のビハインドでこのピリオドを終える。１５点という点差が、この試合は勿論のこと、後の決勝トーナメントの組み合わせや最終順位に至るまで、いろいろと悪影響を及ぼすことになる。

栗原の３Ｐシュート

第２ピリオド、日本は#8 高田や#12 吉田の連続得点で追い上げかと思われたが、トルコも３Ｐシュートやインサイド攻撃で連続加点し、得点差が縮まらない。日本はタイムアウト後、ディフェンスを厳しくすると共に#7 栗原がこの試合初めての３Ｐシュートを２本連続して決めるが、得点差は詰まらず、１５点差のまま前半を終える。

第３ピリオド、日本は#10 渡嘉敷が奮起し連続得点、残り５分に#6 間宮のインサイド得点で３３－４２と点差を詰めたが、そこからトルコも猛攻、インサイド攻撃や連続３Ｐシュートなどがあり、逆に点差が広がる。日本は、疲れも出て窮屈なシュートが続き、結局１８点の差をつけられてこのピリオドを終える。

第４ピリオド、追い上げたい日本は、ディフェンスを頑張ると共に#7 栗原、#12 吉田、#4 近藤が３Ｐシュートを決めて攻め立て、残り６分に５４－６４と１０点差に詰め寄る。トルコは、タイムアウト後、#10 渡嘉敷が４ファウルとなって攻守ともに活動が鈍る日本に対し、#10 渡嘉敷にマッチアップしていたインサイド陣が躍動し始め、一時は８

点差まで詰め寄った日本を突き放す。必死に詰め寄る日本は、#7 栗原をはじめとするフォワード陣が５本の３Ｐシュートを決めたが追いつかず、最後は１４点差で敗れた。

ＦＩＢＡ世界ランキング７位の開催国ブラジルをも破って好調を続けた日本だったが、安心したのか疲れからか、あるいは女子特有の好不調なのか、今大会のペースでは勝っても不思議ではないゲームを落とし、この１４点差が決勝トーナメントの組合せにまで影響を及ぼす結果となった。

８月１１日　１７時４５分　オーストラリア戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	24	26	21	15	86
オーストラリア	23	25	11	33	92

親善試合を含めてオーストラリアとは数次にわたって対戦し、殆ど勝ち目がなかった日本だが、今回は全く違う試合展開を繰り広げ、競り合った挙げ句に惜敗した。

第１ピリオド、日本は#12 吉田が先制点、#7 栗原の３Ｐシュートも決まっていい出だしとなる。オーストラリアも 203cm のセンターを軸にインサイドプレーで対抗する。オーストラリアのミスの隙をついた日本は、速いペースで得点を重ねてリードするが、オーストラリアのＷＮＢＡプレーヤーの活躍で追いつかれ、２４－２３と最少得点リードでこのピリオドを終える。

第２ピリオドに入ると、日本は、#14 本川が相手ディフェンスをかき回すプレーで活躍し、#10 渡嘉敷、#8 高田のインサイド、#7 栗原の３Ｐシュートも決まって、残り６分には３５－２９とリードを広げる。タイムアウト後のオーストラリアがインサイドから得点を重ねたのに対して、日本は、相手の激しいディフェンスによりミスが出て一時逆転される。残り３分をきってから日本は、#10 渡嘉敷のインサイド、#14 本川のフリースローや３Ｐシュートなどで５０－４８とリードして前半を終える。

第３ピリオドに入っても日本は、好調なシュートが続き、残り５分には６１－５４とリードを広げ、一時は抜け出たかのように見えた。オーストラリアも３Ｐシュートなどで反撃してきたが、日本は#13 町田のドライブインや#8 高田のミドルシュート、#7 栗原の２本連続の３Ｐシュートもあってリードを広げ、７１－５９と対オーストラリア戦では初めての１２点リードでこのピリオドを終える。

このままの流れが続くかと思われた第４ピリオド、悪夢が待っていた。開始早々#10 渡嘉敷や#13 町田がドライブインで得点、開始２分に７５－６１と更にリードを広げる。しかし、世界ランキング２位のオーストラリアも簡単には引き下がらず、残り約９分でのタイムアウトでディフェンスを厳しい２－３ゾーンに切り替えるが、#13 町田には相手ガードがマンツーマンで密着する。このため、日本は、ボール回しが止まり、得点のペースが落ちる。ここからオーストラリアが徹底して高さと横幅もあるインサイド陣にボールを集

めて得点を重ね、日本はファウルもあって残り３分には８１－８２と逆転される。この時間、日本は、相手ゾーンを攻めきれず、得点が伸びず、一時は１６点あったリードを失ってしまった。

勝負となった残り１分、オーストラリアが３Ｐシュートでリードを広げ、日本も#12 吉田が３Ｐシュートで食い下がったが及ばず、世界ランキング２位のオーストラリアにひと泡吹かせる夢は潰えた。

８月１３日　１７時４５分　フランス戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	17	23	23	16	79
フランス	19	13	22	17	71

予選ラウンド最終戦、フランス、トルコ、日本の決勝トーナメント進出が決まっているが、決勝トーナメントの組合せを少しでも有利にするためには、このフランスとの試合に１５点差以上で勝利して予選ラウンドＡ組２位となることが必要である。

第１ピリオド、日本は、#14 本川の速攻で先手を取ると、#12 吉田のシュートや本川のカットインなどで得点を伸ばし、とにかく１ゴールでも多くシュートを入れようと頑張る。フランスも高さとパワーで攻め、頻繁に選手の交替を行うが、その後、日本も#10 渡嘉敷がポストからのドライブインでバスケットカウントをとる。終盤、日本のシュート確率が落ちるとフランスがインサイドや３Ｐシュートを決めて逆転し、このピリオドは、１７－１９と１ゴール差で日本のビハインドに終わる。

ドライブインする本川

第２ピリオド、開始早々、#13 町田、#14 本川の３Ｐシュートでリードした日本は、本川のドライブインや#10 渡嘉敷の速いインサイドプレーなどで点差を伸ばすが、フランスもゴール下やリバウンドシュートで対抗し、残り４分で３０－３０の同点となる。日本はそこから、激しいディフェンスによって相手のミスを誘うと共にオフェンスでも果敢に攻めてファウルを得、フランスのファウルを５以上として、度々フリースローを得る。日本は、このフリースローを１本も落とさず全て得点に結び付けてリードを広げ、４０－３２と８点リードで前半を終える。

第３ピリオドに入ると日本は、相手のディフェンスを攻めきれず、シュートもうまくいかない間にフランスにシュートを決められ、開始２分に同点とされる。ここから、日本は#10 渡嘉敷のミドルシュート、#4 近藤の連続３Ｐシュートで踏ん張るが、フランスも３本の３Ｐシュートなどで入れ返して、接戦が続く。その中で日本は、#12 吉田が奮闘してこのピリオドだけで１３得点と気を吐き、得点を伸ばして６３－５４と９点リードで終える。

第４ピリオド、得点を伸ばしたい日本が、攻め急いでオフェンスミスしている間にフランスに得点され、６３－５８の５点差に迫られる。タイムアウト後、立て直した日本は、

ディフェンスでボールを持っているプレーヤーに激しくつき、今度はフランスがミスをしている間に得点する。フランスも負けじと、ミドルシュートなどで得点し、点の取り合いが続いて点差はあまり動かない。決勝トーナメントの組合せ有利の１３点差以上で勝ちたい日本は、残り３０秒を切って７６－６８の８点リードのとき、#9 三好を投入。三好がすぐに３Ｐシュートを決めて日本は、１１点のリードとする。あと２点が欲しい日本は、最後のタイムアウトで作戦を立てて勝負に出るが得点には至らず、結局７９－７１の８点差での勝利に終わった。

以上、予選ラウンドＡグループではオーストラリア全勝のほか、フランス、トルコ、日本が３勝２敗であり、この３チーム間での得失点の差により、日本は４位で決勝トーナメントへ進出することになった。そこで、Ｂグループ１位のアメリカと対戦することになってしまった。Ａグループで、いずれも世界ランキングでは格上である強豪国を相手にして破り、ベスト８となって決勝トーナメントへ進出した日本代表の健闘ぶりは大いに評価される。結果論ではあるが、予選ラウンドでトルコに勝っていればＡグループ２位となり、ベスト４への進出も夢ではなかった。

８月１５日　決勝トーナメント　アメリカ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	23	23	13	5	64
アメリカ	30	26	25	29	110

ベスト８となって決勝トーナメントに進んだ日本だが、オリンピック６連覇という超強豪アメリカには歯が立たなかった。アメリカは、どこからでも誰でも、ノーマークになれば確実にシュートを決め、２ｍを超す選手が数人で渡嘉敷のシュートをブロックに来る。縦横ともに大きな選手がところ狭しと動き回る様子は圧巻でもあった。日本は、前半こそ必死に踏ん張ったものの後半に入るとまるで大人が子供に対するごとくあしらわれてしまった。

第１ピリオド、日本は、#14 本川のドライブで先制点を挙げると、#14 本川、#7 栗原の連続３Ｐシュート、#10 渡嘉敷のミドルシュートなどで得点を重ねる。アメリカも負けじと４本の３Ｐシュートに加えて、上背で勝るインサイド陣がペイントエリアで得点し、一時は点の入れ合いとなる。終盤、日本のシュートがやや鈍った隙にもアメリカはそれまでと同じペースで得点し、日本は２３－３０の７点ビハインドでこのピリオドを終える。

第２ピリオドの開始早々、日本は、#7 栗原が３Ｐシュートを決めるが、アメリカの早いパス回しから徹底的なインサイド攻めにより、開始後３分で１２点差をつけられる。タイムアウト後、日本は、速いパス回しによってシュートチャンスを作り、#4 近藤の３Ｐシュート、#6 間宮のジャンプシュート、#7 栗原と#12 吉田の３Ｐシュートなどで追い上げる。残り２分に日本は、#10 渡

嘉敷のシュートで、４４－４６の１ゴール差に迫る。ここからアメリカは、攻撃に火がつき、３Ｐシュートをはじめとする４連続ゴールで一気に差を広げ、日本は４６－５６の１０点ビハインドで前半を終える。

第３ピリオド、日本は、#14 本川が素早いドライブインで連続得点して５０－５６と詰め寄ったが、善戦はそこまで。その後、日本は、アメリカの奮起した猛攻撃を止めるすべはなく、リバウンドを支配されると、３Ｐシュートを含む連続ゴールで一気に突き放された。残り４分に日本は、５１－７０と１９点のビハインドとなってしまう。日本は#8 高田や#10 渡嘉敷が相手のスキをついて得点するが、アメリカは選手を次々と交代させてリバウンド支配と確実なシュートで攻撃を緩めず、アメリカの２２点のリードでこのピリオドを終わる。

第４ピリオドに入ると、アメリカが７連続ゴールと更に畳みかける。これに対して、日本は、パス回しもうまくいかなくなり３分間無得点、そこで、選手を積極的に交替させてリズムをつかもうとする。しかし、アメリカの攻撃と厳しいディフェンスからのシュートブロックなどで得点を阻まれ、日本はこのピリオドを５得点のみで終える。

ＦＩＢＡ世界ランキング１位で、世界選手権やオリンピックの１位を独り占めしているアメリカに挑んだ日本だったが、桁違いの強さに圧倒された。

内海知秀ヘッドコーチによるこのアメリカ戦を終えた際のコメント

「ノーマークにすると必ず決めてくるアメリカはさすがでした。点を取られるのはしょうがない部分がありましたが、我々がどう点を取るかでした。とにかく選手たちは本当に良く戦ってくれたと思います。

2012 年のロンドン予選を終わってから、この大会を目指して 4 年間、アジアチャンピオンになって臨んだ中で、私も選手も、チームスタッフも、それ以外のサポートしてくれるスタッフも、この大会に懸ける非常に強い想いがありました。

このチームはメダルを目指していましたので、予選リーグでもっと上の順位で決勝トーナメントにいきたかったのが正直な気持ちですが、これもどうやって戦うかを含めて、4 年後の東京オリンピックに向けて大きなステップになった大会であったと思います。」

むすび

今回のオリンピックから決勝トーナメント出場国による順位決定戦が廃止されたため、準々決勝で敗れたチームはその時点で順位が決まり、日本は予選ラウンドの成績から全体で８位という結果に終わった。

最強豪のアメリカには敗れたものの、ランキングで格上のチームを次々と撃破して決勝トーナメントへ進んだことは大健闘といえる。「体格で劣る日本が世界に対抗するためには速いバスケットしかない」という内海ヘッドコーチの方針が、日本の女子バスケットボールチームがこれから進むべき道として、はっきりと示されたオリンピックであった。

日本の女子代表チームについては、2020 年東京オリンピックが楽しみである。

女子オリンピアンが語るオリンピック（その１）

［歴史部］

リオ・オリンピックで女子日本代表は、これまでにないような健闘ぶりを見せたが、結果は８位で、目標としていたメダルには手が届かなかった。「オリンピックには魔物がいるとか、こんなはずではなかった」という言葉をよく耳にするが、４年に一度のオリンピックは一種独特の不思議な雰囲気があるようだ。

歴史部では、リオ・オリンピックを前にして、1996 年アトランタ・オリンピック（２０年ぶりのオリンピック出場）と 2004 年アテネ・オリンピックに、かつて、女子日本代表として出場した選手にお集まりいただき、リオ・オリンピックに出場する日本代表にエールを送るとともに、オリンピックに出場する心構えや、それまでのプロセスについて語っていただいた。

座談会は７月１１日に振興会事務所で開催されたが、当日、ご都合がつかない方と遠方の方々には紙面アンケートによってご意見や感想を伺ったので併せて報告する。

アトランタ・オリンピック出場者

＜主なスタッフ＞　　役職、所属は当時のまま

役　職	氏　名	所　　属
チームリーダー	安達　宜郎	三井生命保険相互会社
監　督	中川　文一	シャンソン化粧品
コーチ	小牟禮　育夫	積水化学工業
コーチ	永井　祥剛	日本電装

＜選手＞　　50 音順、氏名、年齢、体重、所属は当時のまま

選手名	身長 ｃｍ	体重 ㎏	年齢 歳	所　　属
一乗　アキ	180	65	25	シャンソン化粧品
大山　妙子	173	68	22	ジャパンエナジー
岡里　明美	180	70	21	シャンソン化粧品
加藤　貴子	180	69	25	シャンソン化粧品
川崎　真由美	183	69	23	ジャパンエナジー
永田　睦子	178	73	19	シャンソン化粧品
萩原　美樹子	180	73	26	ジャパンエナジー
濱口　典子	183	78	22	ジャパンエナジー
原田　裕花	170	60	28	ジャパンエナジー
参河　紀久子	168	68	28	ジャパンエナジー
村上　睦子	165	57	25	シャンソン化粧品
山田　かがり	178	70	24	シャンソン化粧品
平　均	177	68	24	

アトランタ・オリンピック対戦結果

６チームによる予選リーグ

チーム	ス　コ　ア	チーム	備　考
日　本	６３－７３	ロシア	
日　本	７５－７２	中　国	後半逆転勝利
日　本	８０－１００	ブラジル	
日　本	５２－６６	イタリア	
日　本	９５－８５	カナダ	延長戦で制す

日本は２勝３敗、４位で予選突破

８チームによる決勝トーナメント

チーム	ス　コ　ア	チーム	備　考
日　本	９３－１０８	アメリカ	１回戦
日　本	６９－８０	ロシア	５～８位順位決定戦
日　本	８１－６９	イタリア	７～８位決定戦

日本は最終７位入賞

座談会に参加された選手の方々　（お名前は旧姓、５０音順、敬称略）

大山 妙子　　元ジャパンエナジー　アトランタ、アテネ出場
川上 香穂里　元ジャパンエナジー　アテネ出場
原田 裕花　　元ジャパンエナジー　アトランタ出場
村上 睦子　　元シャンソン化粧品　アトランタ出場

振興会出席者

佐室 有志 会長、小澤 正博 副会長、従野 明宏 副会長、渡辺 誠 理事長、
上谷 富彦 副理事長、日比野 明 顧問、
歴史部　深尾 秀次 部長、池田 理、青木 美帆、事務局　渋谷 美由紀 次長

佐室会長挨拶

皆さん、ご多忙中にも関わらずご出席いただき有難うございます。本日はアトランタ・オリンピックとアテネ・オリンピックに出場された方々にお集まりいただき、このような会を開催できたことを大変嬉しく思っております。

振興会も微力ではありますが、バスケットボール界の発展のため少しでも寄与しようと熱心に活動しています。今日はリラックスしていろいろなお話を聞かせていただければ幸いです。

当日都合悪くアンケートによってご意見をいただいた方々（お名前は旧姓、５０音順、敬称略）

一乗 アキ	元シャンソン化粧品	アトランタ出場
岡里 明美	元シャンソン化粧品	アトランタ出場
加藤 貴子	元シャンソン化粧品	アトランタ出場
萩原 美樹子	元ジャパンエナジー	アトランタ出場
濱口 典子	元ジャパンエナジー	アトランタ、アテネ出場
参河 紀久子	元ジャパンエナジー	アトランタ出場
薮内 夏美	元日本航空	アテネ出場
矢代 直美	元日本航空	アテネ出場
山田 かがり	元シャンソン化粧品	アトランタ出場

司会　オリンピックに出場された感想をお聞かせください。

原田　オリンピックでは控えから出て行くことが殆どでしたが、チャレンジ精神で前向きに戦えたと思っています。どちらかというと、パスが好きだったので、ボールを運んでパスを出してうまく流れを作ることと、ディフェンスから集中して頑張って自分がリズムに乗り、チームにいい流れを作れればいいと思いました。チームとしては３Ｐやスピードなど日本のバスケットが通用し、自信につながった大会でした。夢の舞台でプレーできたことが嬉しかったです。

村上　ジェット（加藤貴子選手）がアンケートで「オリンピックを夢見ていたのは小学生から」と書いていますが、私はそうではありませんでした。バスケットが大好きでコツコツと努力してシャンソンに入り、自分が一途にプレーしていたらオリンピックに近づいていたのです。静岡で開催されたアジア選手権で３位になり、オリンピックに行けたこと自体が幸せでしたし、アトランタのコートに立てたことも幸せでした。

大山　アトランタのときは２０代前半でしたが、まさか自分がオリンピックに出られるとは思っていなかったので、少しでも代表チームに貢献できたことがうれしかったです。オリンピック開会式の感動は今でも記憶に残っています。アテネは一大会空いての出場だったので、ベテランとして挑む最後のオリンピックでした。若い時の経験を生かして、主将もやらせていただき、とてもやり甲斐のある大会でした。

アテネは自分がチームを引っ張ってまとめなければいけない立場だったので、プレッシャーもありました。

川上　アトランタのときは観戦組だったのですが、原田さんが怪我から復帰したばかりでプレーしているのを見て感動しました。そのとき「自分もこの舞台に立ちたい」と思いました。アテネではアトランタに出場した３人の選手（濱口、永田、大山）がいましたので、心強くプレーできました。実は私、アジア予選の韓国戦には発熱で出られなかったのです。アジア予選に出ていない自分がオリンピックに出ていいのかなという葛藤はありましたが、気持ちを切り替えて楽しみました。

司会　**福島大学の白石豊教授によるメンタルトレーニングが役に立ったという情報があります。このことについていかがでしたか。**

原田　私はすごく救われました。私は、オリンピックで控えから出場することが多かったのですが、自分のチームではそういう経験がなかったので難しかったです。最近の選手はスタメンと力の差がない「セカンドメンバー」という形で試合にからみますが、当時は控えという位置づけであり、どのようにしてコートに出ていけばいいのか迷いました。そのことを白石先生に相談したら「試合を変えられるおいしいポジションなのだと思うようにしなさい」とアドバイスされ、すっきりしました。他にも切り替られる気持ちの持ち方や、チームのために何ができるかを考えなさいと言っていただき、集中して大会に入ることができたという印象があります。

村上　白石先生には、合宿の当初から何回も来ていただき、個人面談や全体ミーティングを行っていただきました。自分が思っていることを話していくうちに打ち解けて、自分の不安材料も正直に話せるようになりました。そうやって、しっかりと準備してオリンピックに挑んだのですが、初戦のロシア戦で全員が浮足立ってしまって、試合になりませんでした。そのことを先生に相談すると「人間だからいろいろなことを考える、原点に返って動物的な意識でやってみたら。村上さんはスピードで切り崩すプレーヤーだから、豹になり切れ！」と言われました。試合前にあれこれ考えず、アップから声を出し、集中して試合に入ることが大事だと思います。

原田　白石先生と中川監督が考えた「勝利の１０か条」というのが紙に書いて合宿所に張ってありました。「豹のように走れ」、「シュートは入るもの」、「自分を信じろ、仲間を信じろ」といったような言葉が書いてあるのですが、主将の一乗アキ選手が練習や試合に入る前それを読み上げる。そして、皆で手をつないで復唱してスタートすると不思議と集中力が高まり、試合の中でも強い気持ちになれました。

大山　調子が悪い時に先生と話をすると、悪いものを取り除いて気持ちを楽にしてくれたので、試合でも自信を持てました。アテネのときはメンタルトレーニングの先生がいませんでしたが、濱口さんあたりは、個人的に白石先生にお願いして、メンタルトレーニングをしていたようです。私は経験をベースにして試合に臨みました。

司会　**アトランタでの印象的な試合は、接戦を演じたアメリカ戦だったのではないかと思いますが、皆さんはいかがでしたか。**

村上　バスケット発祥の地で３万５千人ほどの観客で埋まった体育館で、アメリカ代表と戦うという貴重な経験で、鳥肌が立つような思いでした。しかし、自分の出来が最低でなかなかうまくプレーできず、ベンチに降されたとき、中川監督にボードで頭をポーンと叩かれました。こういったことは、アメリカでは考えられないことだったので、別の意味で新聞紙上を賑わしたようです。（笑）

原田　日本の持ち味である３Ｐがよく決まって、走るバスケットもできました。最終的には１５点差で敗れたのですが、途中までは対等に戦えました。アメリカと対戦したチームの中で、日本が、一番点差が少なかったと思います。現地のメディアにも大分取り上げられていたようです。試合が終わった後「ジャパン！」とか「３Ｐナイスシュート」とか、多くの歓声を頂いてすごく嬉しかったです。国内で一緒にプレーしていたカタリナ・マックイーンやテレサ・エドワーズとオリンピックの舞台で戦えたことは幸せで、試合後にハグしたりして感激でした。

司会　アテネのときは国内リーグに外国人選手はいませんでしたよね。

大山　そうですね。当時日本協会では、日本のセンターが育たないからという主な理由で、外国人選手登録を外しました。その中で、濱口選手はすごく成長しましたね。

川上　その分、海外遠征に多くいきました。

司会　そのような中で国際的な高さに対してどのように対応されたのですか？

大山　確かに高さってどうしようもない部分で、オリンピック中もそれを痛感していたところです。それにアメリカなんかは体格も全く違っていて、こちらがぶつかっても逆に跳ね飛ばされるくらいでした。しかし、バスケットは、一人でやるものではなく、チームスポーツなので、選手個々のサイズが少ない分はチームでどうにかしようとして、皆で努力しました。これは先輩たちから続いている日本の伝統で、チーム力を出せれば日本も世界に通用するのではないかと思います。

左から村上、原田、大山、川上の各氏

司会　アテネではギリシャと対戦して、アウェーで大変だったとか。

大山　アテネでは観客の９割位がギリシャの方で、日本のシュートが入っても、ギリシャにファウルがあっても、地響きがするほどの大ブーイング。全てが日本に不利になりそうな状況でした。

川上　ギリシャ戦は思い出のある一戦です。残り数秒で３点負けていて、私がフリースローをもらったのですが、大山が寄ってきて「１本目は決めて２本目落として。その後、永田がリバウンドを取って、矢野がスリーを決めるから」と言ったのです。その３Ｐは決まらなかったけど、最後の土壇場でそういう作戦を考えつく凄さに感動してしまいました。アトランタへ出場した人の経験はすごいものがあるなと感じた次第です。

ここからはアンケートで取材を行った方々の回答です。

設問　アトランタ・オリンピックへ出場された感想は？

一乗　バスケットを始めたころはオリンピックに出場できると思っていなかったので、本当に嬉しく、夢のような経験でした。
初戦のロシア戦に勝つことを目標にしていたので、悔しい敗戦でしたが、すぐに切り替えて次の準備に入り、カナダ戦では３Ｐが好調で波に乗れました。アメリカ戦では日本のリーグで一緒にプレーしていた選手とも対戦し、負けはしましたが想い出に残る試合でした。最後の試合になったイタリア戦は、どうしても勝とうという思いでチーム一丸となって戦い、素晴らしい内容だったと思います。

加藤　小学生のころからの夢だったので、現実となって嬉しかったです。

萩原　オリンピックはテレビで見るものだと思っていたので、とにかく嬉しかったです。

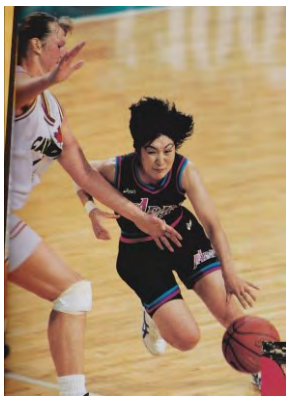
濱口　ＮＢＡ選手を間近に見られて興奮したりもしましたが、チームが一丸となってオリンピックに臨めたことを誇りに思います。
初戦ということもあって、ロシア戦はとても緊張しました。特に印象に残ったのはアメリカ戦です。大接戦を演じ、現地の報道でも大きく取り上げられましたが、３Ｐを打たない私には､何が起こっているのか実感できなかったことが悔やまれます。

参河　最初から最後まで夢のような時間で、一生の宝物です。「６位入賞」が目標だったので、７位は満足のいく結果だと思います。引退してから子供たちを指導することが多くなりましたが、オリンピック選手として活動できることを誇りに思います。

矢代　開会式は、今でもその風景を覚えているくらい感動しました。オリンピックに出場する前と比べ、日本代表選手としてより一層の責任や役割を感じ、いろいろな面で意識を高く持つきっかけとなりました。
優勝したアメリカに対して、一番得点を取ったのが日本だったはずです。３Ｐを多く決めて日本のスタイルをアピールできた試合でした。どのゲームでもサイズの小さい日本チームの戦う姿を見て、試合後に多くの観客がスタンディングオペレーションを送ってくれました。

山田　アジアで３チームというチャンスの年に巡り合えてよかったです。そして、選手に選ばれたことを幸せに思いました。７位に入賞できてよかったです。
ロシア戦は初戦の緊張もありなかなか思うように試合ができませんでした。バスケットボール発祥の地でアメリカと対戦できて、勝敗関係なく楽しめました。イタリア戦は予選で負けていたので、勝って７位になろうと皆で必死に戦いました。

ディフェンスする川崎（左）と永田（右）



ドライブインする村上

設問　オリンピックへ向けての練習量はどれほどだったですか？

一乗　具体的な練習量は不明ですが、海外遠征などを重ねて、国際試合の経験をしっかり積んで大会を迎えました。

萩原　２分間の３Ｐ打ち込みを午前と午後、毎日行いました。メンタルトレーニングも役立ちました。

濱口　バルセロナ・オリンピックの予選で負けてから４年間、早朝、午前、午後、夜と練習を続けました。休む間もなくただガムシャラに取り組みました。

参河　私は３Ｐシューターだったので、毎日１，０００本決めることを目標に練習を積み重ねました。

矢代　具体的には覚えていませんが、リーグ終了後１週間ほどのオフを経て、すぐに全日本の活動というスケジュールが何年も続きました。

設問　長丁場でモチベーションの維持をどのようにしてされましたか？

一乗　メンタルトレーニングを取り入れ、大舞台で物おじしないように力を出し切ることをいつも考えていました。

加藤　出場するということで舞い上がってしまい、高いモチベーションを保てなかったのが悔やまれます。

萩原　あんなに大きな舞台でプレーできるということが、大きなモチベーションでした。

濱口　メンタルコーチの白石先生の存在がとても力になりました。

参河　世界の強豪と戦える期待と、日本のバスケットを世界の人々に見てもらいたかった気持ちが大きかったです。

矢代　チームの中では若手だったので、大きなプレッシャーはありませんでした。チームの１０か条を設けて、メンタルトレーニングでコントロールしました。

山田　オリンピックという舞台を楽しみたいという気持ちと、会場が盛り上がる雰囲気で自然とモチベーションは維持できました。

設問　楽しかったことつらかったことを教えてください。

一乗　海外遠征や、ヨーロッパやブラジルなどで国際試合をしたことが楽しかったです。

加藤　楽しいトレーニングはありませんでした。パフォーマンスが上がらず、チームら迷惑をかけるとともに相手の前で自分との戦いに完璧に負けていました。

萩原　練習で楽しかったことはありません。オリンピック予選直前まで調子が上がらず、苦しかったです。

濱口　１ヶ月ほどのヨーロッパ遠征は大変でしたが、最高の経験になりました。アメリカから来たコーチと、ひたすらディフェンスの練習をしたことがつらかったです。
中国とカナダに勝った時やアメリカと善戦したときに、ロッカールームへ帰って皆で馬鹿騒ぎしたことがとても楽しかったです。

参河　シュートの打ち込み練習で確率が９０％を超えると、中川監督が皆におごってくれたのが楽しかったです。自分に何が必要なのかわからなくなったとき、コーチが監督の目指しているスタイルを伝えてくれて救われました。

矢代　若かったこともあり、なかなか出場時間がもらえず悔しい思いでした。この悔しさが次の大会へとつながったと思います。

山田　トレーニングで楽しかったことはありません。

設問　皆さんがプレーする上で大切にしていたことは？

一条　チームプレーを大切に、個人しては、いつも得点をしっかり取ることを考えていました。

加藤　自分のなすべきことを全うすることです。

萩原　相手に向かっていく気持ちをしっかりと持つことです。

濱口　チームのために「私」を捨てることです。

参河　一番はチームの勝利。コートに立っていない時は、常にいつ出ても良いように準備しておくことです。

矢代　コートに立ったら、チームのために自分のやるべきことを精一杯やること。そして試合のテーマやチームの約束事をしっかり遂行することを考えていました。

設問　選手村の環境はいかがでしたか？

一条　とにかく広かったので移動が大変でした。部屋ではリラックスできましたし、食事も日本食を用意していただいたので楽しみでした。

加藤　過ごし易かったですし、食事も日本の方がシェフをしていたので、とても美味しかったです。

萩原　部屋は狭く感じました。バレーボールアメリカ代表のヨーコ・ゼッターランドさんに選手村のトラム（路面電車）で話しかけられたのが、良い思い出です。

濱口　現地の大学生がボランティアで掃除を担当してくれ、とてもきれいで試合に集中できる環境でした。食事も肉、じゃが芋、サラダなど必要な物は揃っていましたが、味付けのせいか飽きてしまいました。

参河　部屋も食堂も移動手段もとても良かったです。各国の料理をいつでも食べることができ、つい食べ過ぎてしまいそうでした。日本食も有り難かったです。

矢代　スケールの大きさに驚きました。私はオリンピック期間中に誕生日を迎えたので、選手村でチームメートがお祝いをしてくれたのですが、周りにいた他国の選手達もハグなどでお祝いしてくれ、嬉しい思い出です。

山田　選手村の食事はいろいろな国の物が出て楽しめました。でも、試合の時にスタッフが握ってくれたおにぎりは一番でした。

［次号へ続く］

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

アンケートによる回答は、アテネ・オリンピックに出場された方々からも届いており、次号にてそれらを紹介します。

今回の座談会（７月１１日開催）の中では、リオ・オリンピックに出場する女子日本代表チームに送るエールメッセージも含まれていましたが、本誌がお手元に届くときには、オリンピックが終了しているという日程的な関係から、それらを割愛させていただきました。

リオ・オリンピック男子世界最終予選

日本代表・予選ラウンドで敗退

［編集部］

７月４日からセルビア・ベオグラードで開催された、リオ・オリンピック男子世界最終予選に、１８年ぶりにアジア４位となって出場した男子日本代表は、第１次予選ラウンドで敗退となり、1976 年のモントリオール・オリンピック以来４０年ぶりのオリンピックに出場はならず、７月１１日に帰国した。

男子世界最終予選に出場した１８ヵ国中、日本はＦＩＢＡ世界ランキングで４８位と最下位、新聞でもコメントされた通り、男子については日本と世界の差をまざまざと見せつけられたといっても過言ではないだろう。

また、ヨーロッパとアジアの差も歴然としている状況であり、男子についてはその強化策を改めて検討しなおさなければならない。

身長体格的に不利な日本代表が、身長差と体力差をカバーして世界と対等に戦うにはどうすればよいのかをバスケットボール界全体で考える必要に迫られている。

予選ラウンドセルビア会場グループＢ日本代表対戦結果

７月４日　ラトビア戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	11	12	15	10	48
ラトビア	26	20	18	24	88

７月８日　チェコ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日　　本	14	21	16	20	71
チェコ	23	25	21	18	87

セルビア会場決勝トーナメント最終戦

７月９日　プエルトリコ代表　７７――１０８　セルビア代表
（グループＡ２位）　（グループＡ１位）

各開催地におけるオリンピック出場国

セルビア、イタリア、フィリピンの３会場で開催されたリオ・オリンピック男子世界最終予選の各開催地で１位となったオリンピック出場国は次の通り。

セルビア会場　　セルビア（ＦＩＢＡ世界ランキング６位）
イタリア会場　　クロアチア（ＦＩＢＡ世界ランキング１２位）
フィリピン会場　フランス（ＦＩＢＡ世界ランキング５位）

ヘッドコーチによる帰国時のコメント

この男子世界最終予選の**セルビア会場**予選ラウンドで敗退した日本代表の長谷川建志ヘッドコーチは次のようにコメントしている。（括弧内は編集部による補足説明）

「アジアと世界の戦いは違っていたという印象を受けました。ワンランクもツーランクも上のレベルでした。この差は真剣勝負でしか分からないことです。ラトビアにもチェコにも、我々のゾーン（守り方）やどう攻めてくるか（攻め方）をスカウティングされていたのは、親善試合と大きな違いであり、彼らも本気でした。

ラトビアとチェコは同じレベルであり、（日本は）１試合目の修正をしっかり２試合目に出すことができ、チェコ戦の第３ピリオドには１０点まで詰め寄ることができました。もう少し経験を積んでいけば、ラトビアやチェコには勝てるチームになれます。ラトビア戦は４０点差がつきましたが、実際にそこまでの差はありません。ただ、２０点くらいの差はありますが、そこを詰められる可能性は十分にあります。この２チームのレベルと対等に戦うことができなければ、世界のレベルに通じません。

セルビア（セルビア会場で１位の国）の試合を見ましたが更にワンランク上でした。そのレベルに行くためにも、まずはラトビアとチェコにできるだけ早く追いつけるようにしなければなりません。

高さのある相手の３Ｐシュートを全て抑えることはできないので、インサイドを守ろうということが、アジアとの戦いを含めて私が率いてきたときからのテーマでした。アジアの戦いであれば、今回のように確率高く外からのシュートは入りません。でも、ヨーロッパは組織力も個人の力もアウトサイドのシュート力も全てがレベルアップしています。

４年前のオリンピック大会では韓国のゾーンディフェンスがうまく機能していましたが、４年が経ち、ヨーロッパのチームの組織力が１歩も２歩も先に進んでいるなと思わされました。高さやフィジカルだけでなく、個人のディフェンス力、オフェンス力、シュート力、組織力まで、アジアとはレベルが違うと痛感させられました。

フィジカルやパワーで劣る日本が更に伸びるには、個のレベルを上げて組織力を高めていくしかないと思います。シュート力にしてもパスの技術にしても、目指している部分を今までより上に設定していかなければダメです。対戦相手のプレーから感じたことは、日本の選手たちも、練習して継続していけばできるようになるプレーはいくらでもあるということでした。フィジカルや高さは関係ないプレーも沢山ありました。そのよい部分を目指さなければいけません。

プエルトリコのガードのようなプレーは積み重ねていけばできるようになります。セルビアは 210cm のパスワークが凄かったですが、小さい時からやっていく必要があります。

今後は、世界をしっかり目標に定め、高みを目指すことから始めることが大事です。2020年東京オリンピックまで４年しかありません。具体的に選手を海外に行かせるとか、ピンポイントで改革していく必要性を感じました。」

あとがき

上記セルビア代表（ＦＩＢＡ世界ランキング６位）は、リオ・オリンピックで決勝トーナメントに進み、予選リーグでは敗退したオーストラリア（ＦＩＢＡ世界ランキング１１位）を破って決勝に進み、最強豪のアメリカ（ＦＩＢＡ世界ランキング１位）に敗れたが、銀メダルを獲得している。

全国シニア交歓大会 in YOYOGI（第９回）開催

［普及部］

９回目を迎え、恒例となった「全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」は、５月３１日（火）～６月１日（水）の２日間にわたって代々木第二体育館で開催された。

今回は、日程的な事情から週半ばの開催となったが、男子９チーム、女子４チームが参加し、総参加者数も昨年同様２００名を超えた。今回も、遠距離の岩手、兵庫から多くのシニアが参加し、白熱した試合を展開。７０歳以上の部でも元気なプレーが続出し、高齢でもバスケットボールを生涯スポーツとして楽しむ姿が印象的だった。

試合時間は、男子８分クォーター、女子８分クォーター、７０歳以上６分クォーターとして、それぞれのバスケットを十二分に味わっていただいた。

主催した振興会では、各チームの中に振興会会員が３名以上在籍することを参加条件としたが、全チームが条件をクリアしての出場となり、振興会会員の増加にも一役買った形となった。その中で、財政的に赤字とならないようプログラムからポスター、懇親会参加証などが振興会スタッフの手作りとなり、華々しい代々木の陰には役員各位の大変な苦労もあった。

第１日目の試合終了後に、渋谷駅近くで開催された合同懇親会には、１００名以上のシニアが出席して盛り上がり、参加者同士の楽しい交流が深まって意義のある大会を終えた。

［試合の結果］

５月 31 日(火)　　網掛け：男子

	チーム名				チーム名
男子	せんべーず・ゴールデン	30	VS	40	横浜ビー・シーガルズ
男子	東 京 駄 馬	25	VS	28	岩手マスターズ
70UP男子	ALL70	21	VS	25	シルバーキッズ
男子	千葉Coki-Coki	20	VS	34	シルバーキッズ
男子	岩手マスターズ	35	VS	23	大阪YOYO
女子	シルバーキッズレディース	12	VS	46	入間テンダース
男子	STARS OF STARS	38	VS	18	セブンブラザーズ

６月１日（水）

	チーム名				チーム名
男子	横浜ビー・シーガルズ	32	VS	20	岩手マスターズ
男子	千葉Coki-Coki	28	VS	47	東 京 駄 馬
女子	長野クラブシニア	36	VS	22	千　葉
男子	STARS OF STARS	35	VS	14	シルバーキッズ
女子	シルバーキッズレディース	11	VS	49	長野クラブシニア
70UP男子	A	23	VS	19	B
男子	大阪YOYO	34	VS	27	横浜ビー・シーガルズ
女子	入間テンダース	26	VS	17	千　葉
男子	せんべーず・ゴールデン	22	VS	22	セブンブラザーズ

［参加チームからの感想文］

STARS OF STARS

会員	氏　名	年齢
	奥　田　晃　紀	73
○	鈴　木　進　吾	73
○	篠　原　正　邦	73
○	諸　山　文　彦	73
	鹿子木　　雅	73
	窪　田　博　仁	72
	饗　場　憲　二	70
	松　下　成　裕	68
	三　浦　眞　造	68
	室　　恵　雄	68
	柳　沢　研　二	66
○	高　倉　潤一郎	65
	小　池　紀　彦	64
	渡　辺　　徹	64
	川　内　　孝	63
	奥　山　幹　雄	61
	海老沼　郁　夫	61
	篠　辺　和　宏	61
○	小　澤　正　博	80

室　恵雄

私は全国シニア交歓大会 in YOYOGI に参加して、改めて自分自身のバスケットボールに対する気持ちを再確認できた気がします。

それは、中学１年で始めたバスケットの魅力にまた取りつかれたことです。勝ち負けにこだわった青春時代から、見て楽しむ時代を経て再び自分がプレーできる時代が来るとは想像もしていませんでした。

特に、同世代（Over 60）の人たちが活き活きとボールを追いかけている光景は、自分のバスケットボール愛に大きな火を灯してくれました。代々木第二体育館というバスケットの聖地で、６０歳を超えてまたプレーができることは何にも優る喜びです。

思ったように体は動きませんが、一つでもいいパス、いいシュートができるよう努力し

ていきたいと感じました。老後どのように人生を過ごしていこうかと考えていた時に、会社の先輩である奥田さん(７３歳)に強く押されて再びバスケットボールを始めましたが、先輩は７３歳になってもすごいスピードでストップジャンプするのみならず、シュートをきちんと決めることは驚異であるだけでなく、私の目標になりました。

人生の終盤にきて新しい仲間とめぐり会い、大好きなバスケットができるという幸せを感じながら、練習や筋トレに頑張って参ります。

皆様、今後会場で顔を見かけたらお声をかけてください。よろしくお願いします。

千葉 Coki-Coki

会員	氏　　名	年齢
	志　賀　政　司	77
	岡　田　忠　士	72
○	渡　辺　時　男	71
	西　郷　隆　輝	70
○	渡　辺　直　幸	68
	高　松　昭　二	67
○	鈴　木　　修	63
	竹　田　益　男	61

渡辺　直幸

私は第９回大会が２度目の参加です。今回の参加の感想を述べる前に初めて参加した時（第８回大会）の気持ちを述べたいと思います。その方がこの大会に対する新鮮な気持ちが書けるような気がするからです。

私にとっての代々木第二体育館（フロアー）は長い間憧れの場所でした。テレビでの放映は全日本決勝くらいしか無い時代に観客席には何度か足を運びましたがフロアーに降りること、ましてやここでバスケットをプレーするなんて夢のまた夢でした。その夢を実現させてくれたのがこの大会でした。一方現役時代このコートでプレーされていた方々にとっては懐かしい、思い出の詰まった体育館（フロアー）だと思います。そしてこの体育館を懐かしいと思っている人達は私が観客席から応援していた名選手で私にとっては雲の上の存在でもありました。憧れの方であり雲の上の方、そんな方との距離を縮めてくれたのもこの大会、このコートでもありました。試合の結果よりもこんな環境で憧れの方々とプレー出来たことだけで十分でした。

今年はコート上、会場のあちこちで「元気、調子は」と声を掛け合う光景が見られました。私も再会を楽しみ、そして新しい知人をたくさん増やすことが出来た大会でした。懇親会では現役時代の話で盛り上がり、当時のことが最近のことのように鮮明によみがえってきました。私には母校の先輩達がこのような場所で活躍しておられる姿も新鮮でした。限られた時間では有りましたが楽しかったです。こんな素晴らしい時間を共有できる方々が増えてくれることを切に望みます。

間もなくこの体育館も耐震強度補強工事に入るため暫く使えなくなりますが、会場を確保して大会だけは続けて旧交を温め友達の輪を作る機会を残して欲しいと思っています。

東 京 駄 馬

会員	氏　　名	年齢
○	山　本　　治	82
	望　月　慎　一	71
	神　　康　雄	67
	山　田　修　一	66
	西　川　功　二	65
○	吉　田　俊　幸	64
○	橋　田　龍太郎	64
	大　沼　正　夫	62
○	片　山　祥　司	62
	岩清水　芳　樹	62
	平　野　秀　昭	62
	水　野　俊　彦	61
	須　藤　亮　一	61
	市　川　信　行	61

吉田　俊幸

今年も、代々木第二体育館のコートに駄馬は立ち、全国の諸先輩方の胸をお借りできた。１日目、岩手マスターズに惜敗、３Ｐシュートの確率の違いを痛感。２日目宿敵千葉 COKICOKI に勝利。

前日の懇親会で渡辺さんにつられて、吉田が「千葉の次に弱い駄馬です」とチーム紹介してしまった。その対策で懇親会終了後、渋谷駅近くの居酒屋で密かに老メンバーが山本御大を囲み、意見と酒を酌み交わして考えた。

駄馬と千葉は、その昔“応仁の乱”からの宿敵？そこで秘策を用いるか？正攻法でいくか？戦評定の末、千葉チームに年齢合計で負けない山本（82)、望月（71）の両巨頭をスタートメンバーに起用、これがまんまと図に当たり、第１ピリオド“橋龍”のシュートがさく裂、その後の試合も有利に運ぶことができた。千葉の皆さん有難うございました。

最後に、今大会の運営に携わってくれた振興会役員ならびに関係者の皆様に大感謝！！有難うございました。

大阪 YOYO

会員	氏　　名	年齢
	日下部　利　夫	62
○	小　上　晋　司	61
	山　田　治　行	60
○	大　泉　　篤	60
○	杉　木　一　司	60
	川　合　良　侍	60
	中　江　謙　羊	60
	丸　田　　博	60
	中　島　孝　治	60
	岩　瀬　文　弘	60

横浜ビー・シーガルズ

会員	氏　　名	年齢
	村　山　　繁	72
○	條　　武　志	71
	揖　場　　熙	70
	狩　野　　治	68
	熱　田　　学	67
	宮　次　保　明	66
○	川　戸　政　角	65
○	山　上　久　夫	65
	畑　沢　三　幸	64
○	瀬　下　秀　人	63
	畑　沢　　章	61
	栗　田　慶　一	61
	田　所　　宏	61

４０年ぶりに代々木第二に立って

畑澤　三幸

スポットライトに照らされたように浮き上がるコート。走ったり飛んだり止まったりする度、足に心地よさが伝わるスプリングの効いたフロア。プレー中、他に邪魔されることなくボールに集中できる一面コート。まさしく、代々木第二体育館はバスケットボールをする者にとっては、高校野球の甲子園のような神聖な場所だと思っております。

そんな代々木第二でシニアの交歓大会があるから出場しないかと、３月初めに突然打診がありました。もちろん二つ返事で参加することにしました。４０年ぶりに代々木第二でプレーすることに、大いに気持ちが高ぶったのはいうまでもありません。大会に向けて日々ランニングに熱が入り、１０キロ走やインターバルもやりました。また、週１回湯雄スペッシャルという地元のシニア・スーパーの仲間たちと、今まで以上に力を入れて練習に励み、大会に向けてしっかり準備して臨みました。

大会１日目の試合は、埼玉・せんべーずでした。弟のチームには昨年山形県酒田市での八幡カップから参加させてもらいました。当然、仲間の得意なプレーや特徴は頭に入っていました。アップ中、弟に積極的に攻めた方がよいとアドバイスされました。結果、試合開始早々リバウンドシュートをバスケットカウントし、フリースローも決め３点プレーになりました。その後もミドルや速攻からレイアップを決め、チームを快調なスタートに導くことができました。やはり、代々木第二で決めたシュートは快感でした。

試合は前半の飛ばし過ぎで！？で途中追い上げられましたが、最終ピリオドに踏ん張り逃げ切って勝つことができました。試合後プログラムを見たら、相手チームに大学の同級生がおり（部には所属していなかった）、久しぶりの再会で、いろいろ話が盛り上がり楽しいひと時でした。

翌日の２試合目は、昨年の八幡カップでも対戦している岩手マスターズでした。お互い手の内を知っており、守りが厳しく立ち上がりリードするが競り合いが続きました。その分守りを頑張りチャンスの仲間にシュートを打たせました。結局一度も逆転されることなく競り勝つことができました。相手に大学の大先輩がおり、やりにくいのもこの大会の味かなと思いました。

夕方の３試合目は、大阪のＹＯＹＯという６０代になったばかりの選手が多く、しかも長身者もおり苦戦が予想されました。案の定、立ち上がりから相手センターを中心とする攻撃を抑えきれず、追いかける展開でした。１ゴール差まで追い上げもしましたが、最後は若さに押し切られてしまいました。３試合とも楽しくプレーできたことは言うまでもありません。

それ以上に驚いたことがありました。ひとつは、７０歳代のチームがあり、楽しくプレーしていること。二つ目は、女子の部もあり、４チームが参加していたことです。その中の埼玉・入間テンダースには、４人の後輩がおり中心選手として活躍している姿を見て、とても嬉しく思いました。女性の方が、男性よりも年老いてから現役に近いプレーができているように見えました。男性はそれに比べるとフィジカルの衰えが大きく、ギャップが大きいと感じました。

奇しくも後輩の試合を審判することになっており、試合終了後５人で記念写真を撮りました。最も驚いたのは、兵庫シルバーキッズレディースの７８歳の方がコートに立ち、華麗なパスワークを見せていたことです。この大会の輪が少しずつ広がり、長く続くことをお祈りします。

それとともに、大会を運営し陰で支えてくれる日本バスケットボール振興会の多くの方々に心より感謝します。有難うございました。来年の再会を楽しみにしております。

せんべーずゴールデン

会員	氏　名	年齢
	田　中　義　郎	77
○	荒　蒔　孝　次	72
○	謝　　文　伝	67
	諏訪部　栄　一	66
○	増　井　英　明	65
	川　上　　勉	65
	木　村　和　史	64
	植　波　吾　一	62
	宮　田　　徹	62
	久　居　和　夫	62
	俵　木　　登	62
	アラン　新　井	61
	佐　藤　規　雄	61
	岩　井　清　明	60

シルバーキッズ

会員	氏　名	年齢
○	山本嘉宏	79
○	酒井恒夫	78
○	三谷千尋	78
	渡邊操六	77
	天摩義信	77
○	野嵜正一	76
	国分孝雄	76
	伊藤宏	75
○	上野正紀	73
○	磯野和彦	71
	横田茂治	67
	藤原徹	66
	谷野章二	66
	東式輝	66
○	山口敬	66
	中島利三	66
	梅谷元樹	66
	坂井克己	64
	芦田友紀	63
	浅野重光	61
	前多由隆	60

神戸シルバーキッズと代々木

三谷　千尋

シルバーキッズは平成 12 年 11 月に結成され、以来 16 年間、三宮にある神戸市民福祉交流センター7 階の体育館を拠点に活動を続けているチームです。設立以来、入会資格が 60 歳以上と言う会則が守られている点で、他のシニアのチームとは一味違う特徴があります。当時は、全国に 60 歳以上の選手を単独で 5 名以上揃えてゲームに参加できる公式チームは未だありませんでした。

そんな時に、シルバーキッズの会員は、常に 20～30 名を数えていましたから、元気な 60 歳以上のバスケットマンが多く集まっていた点でも、珍しい存在でした。日本のバスケット界におけるゴールドシニアチームの先駆的存在として、代々木では、大いに超高齢者バスケットの楽しさの宣伝役を務めさせて頂いて来たつもりです。年齢的に同格のチームの早い出現を待ちましたが、直ぐにはなかなか適いませんでした。今でこそ 60 歳代、70 歳代と色分けがなされてはいますが、同じ年代でも老人の 61 歳と 69 歳、71 歳と 79 歳では体力的に決定的な違いがあります。シルバーキッズの長老の方々は、既に皆 80 歳をはるかに超え、多くのメンバーも 75 歳を超えるレベルになってきました。

こんなシルバーキッズにも悩みの種？はあります。チームの若返りが他チームのようにはなかなか行かないのです。年寄りにとって、冷暖房完備の体育館は、夏冬とも天国なのですが、練習時間を平日の 15：00～17：00 としている為、定年の延びた此の頃の 60 歳代前半の若い人達が練習になかなか参加できないのです。それに 60 歳以上と言う年齢枠も影響してか、若い元気なスピード溢れる練習相手にも恵まれず、若手選手も普段の練習で年寄り相手のスローなプレーに慣れてしまい、いざという時になかなか体が反応しないようです。

しかし、60 歳以上と言う年齢枠には良い処もあります。同病相哀れみ、いたわり合って、プレーを楽しむ事ができるからです。その日のお互いのプレーの中の一つを取り上げて、

あれは良かった、良くやったと褒め合い評価し合うことは、バスケットを愛する者にとっては欠かせない楽しみであり、励みだからです。公式にプレーする上では、80 歳と言う年齢にはバスケット年齢の限界を感じます。それでもコートの上で何分持つ・持たぬとは別に、来年も代々木で何かがあるのを楽しみに、また１年歳を取るのも忘れて、練習に、懇親に皆で励み・楽しんでおります。

セブンブラザーズ

会員	氏　　名	年齢
○	山　見　博　康	71
	飯　島　　宏	69
	西　瀬　正　次	69
	若　山　秀　夫	68
	西　川　和　人	68
○	蒲　田　尚　史	68
	山　内　　豊	68
	高　橋　純　三	68
○	佐々木　政　治	66
	木　村　光　彦	65
	西　島　　修	65
○	池　本　祐一郎	64
	桂　木　明　夫	63
	林　　史　郎	62
	荒　井　親　平	62
○	西　川　博　之	62
○	田　宮　　秩	61
	田　中　明　彦	60
	寒河江　正　博	60

飯島　宏

今年で３年目の参加となり、昨年の１勝１敗以上の成績を目指し、メンバー各自が夫々自主トレーニングにも励み、意気軒昂で臨みました。２試合を通じてエントリー１９人、平均年齢６２歳と昨年よりメンバー充実。

しかし残念ながら１敗１分けで勝利をつかめませんでした。それでも、全員出場を果たし、懇親会へ。

セブンブラザーズの創生は、国立７大学定期戦（大学対抗戦）として戦っていた同志がＯＢとしてチーム作りをしたものです。ルーツは北海道・仙台・東京・名古屋・京都・大阪・九州。夫々昔の癖を背負った者の集合体です。

懇親会では、今回の試合でのそれぞれのプレーぶりを称えたり、現役の時のプレーと比較しながら、そして、昔の定期戦の対戦の思い出が交錯しながらの楽しい時間を過ごしました。昔も今も練習や試合の後の一杯は至福です。

昨年のセブンブラザーズのユニフォームに加えて、団結意識高揚のため、「団旗」を作り、会場にも掲揚させて頂きました。

このように全国シニアバスケットボール交歓会 in YOYOGI に参加するようになって、昔の全国にルーツを持つ者同志が一つになり、代々木第２体育館でプレーをすることにメンバーは懐かしさや、活力を感じていることと思います。

ＳＥＶＥＮ ＢＲＯＴＨＥＲＳのメンバーも充実してきて､他のシニア大会への参加も考えられるようになりました。バスケットボールを通じて、よい交流が生まれることを心から祈念しております。

岩手マスターズ

会員	氏　　名	年齢
○	油　井　　康	80
○	高　橋　健　悦	70
	渡　辺　重　人	68
	七木田　一　善	68
	大　内　茂　実	66
	引屋敷　聖　晴	66
	若　林　治　男	64
	佐　野　信　一	64
	菅　原　正　義	64
	今　野　　庄	64
	後　藤　節　夫	64
○	伊　藤　　聡	63
	佐　藤　淑　夫	63
	丸　山　久　春	63
	田　中　省　三	63
	吉　田　寿　仁	62
	百　々　正　博	61
	高　橋　三　男	60
	鈴　木　　繁	60
	榊　　康　弘	60

油井　康

全国シニア交歓大会 in YOYOGI の参加は岩手マスターズとして２回目である。第８回の昨年の大会に参加した者に参加の呼びかけをしたところ、新たに参加したいと申し出をした者を含めて、２０人以上が集まった。

我々地方の『バスケッボール愛好者』（敢えてプレーヤーと言わず愛好者とする）にとって、代々木第２体育館は、いわば『聖地』であり、まして改築のため取り壊すという報道が流れたので、この機会を失しれば、聖地のフロアーに立つことが出来なくなるとあって、希望者が殺到しての参加となった。

３月前から週２回の練習日を設け、奥州市の体育館使用許可をとり、シュート練習、週１回は合同練習として通知したところ、毎回１５人上の参加者が盛岡花巻、一関、大船渡から駆けつけた。ご存じのとおり、岩手県は，四国四県の面積を上まわる面積で、盛岡からは、高速道を利用して約１時間、大船渡からだと北上山地を越えて海から内陸へ約１時間３０分を要する遠隔地で、幾らバスケットが好きだからといって良く集まってくれたと感心した。

昨年の大会には、私の高校の後輩である、三浦真造君を無理やり口説き落とし、インサイドの強化を図ったが、アウトサイドのシューターがいなかったため、空回りして、思うような成果を得ることができなかった。今回は３ボイントシュートが飯より好きだと自認する渡辺重人、
年齢６０越え、垂直跳び６０センチ越えの吉田寿仁が参加したので、体制が整い、今年こそはと意気込んだ矢先、三浦がＯＢ会のゴルフで初日参加不能となった。

初日　第１試合　対駄馬　第２試合　ＹＯＹＯ　は、若手新人にミドルエイジの伊藤、菅原等の活躍で苦しみながらも２連勝することができた。最高年の私も、毎度の３分間出場で、インサイドにカットインし、デフェンスのブロックをかいくぐって（自分ではそう思いたい）ゴールネットをゆらすことができた。

懇親会の席上、私の『モーゼになる日』を読んだと思われる相手チームの方から『チャンと守っていましたよ』　と声をかけていただいた。嬉しい労りの言葉に感謝しながらカップのビールを美味しく飲みほした。

第２日は　対横浜　ビー・シーガルズ　である。若手シューターに加え、三浦の参加で、上、下とも厚みができて、勝って岩手に帰れると思ったが、シューターの渡辺が膝を故障して、から回りし、いろいろ策を労したが、連携が悪く、去年と同じ結果となり、敢えなく惨敗した。

盟友、川戸政角君との対戦であったが、なかなか思うようにはいかないものだ。横浜チームとは９月に岩手にきてもらい復讐戦を計画している。

代々木第２体育館の改修で、本大会が無くなることを懸念する参加者が大勢いると思われる。コートの確保、大会の準備、運営等、ご苦労とは思われるが、万難を排しての継続を望むのは私だけだろうか。

［女子参加チームの感想］

入間テンダース

会員	氏　　名	年齢
○	井　上　由美子	65
○	久　居　智　子	62
○	石　原　明　美	60
	中　城　敦　子	60
	土　屋　純　子	60
	大　西　圭　子	59
	渡　辺　信　子	58
	泉　　炎	58
	渋　谷　由　紀	57
	尾　崎　蔦　江	55
	小　林　知　子	53
	佐久間　尚　美	52
	青　木　美　雪	52
	小　柳　恵　子	51
	宮　崎　清　美	51

石原　明美

今年もバスケットボールの聖地、代々木第二体育館で全国シニア交歓大会に参加させていただきました。

平日２日間にわたる開催は、仕事を持っているメンバーが多い我がチームとしては参加者を確保することに苦心しました。結果、リタイア組（オーバー６０）を中心に１日目のみ参加者、２日目のみ参加者を含め何とか試合ができる人数確保に至りました。

振興会の役員の方にはわがままを聞いていただき、試合時間をなるべく遅くしていただくことで仕事が終わってから駆けつけることができたメンバーもおりました。帯同審判を出すことができず、他チームの方にご負担をかけることがあったかと思いますが、女子用のボールを持参したことでご容赦いただければと思います。

私たちは第１回大会から連続出場させていただいており、チームには昨年から今年にかけて５０歳となり、ゴールデンデビューしたメンバーもおり、年齢層に厚みを増したテン

ダースです。この大会で顔なじみの先輩方も増え、名前を言って応援していただけて光栄の限りです。

今年も大学の先輩はじめ、他チームの方々との新しい出会いもあり楽しい２日間となりました。６０歳、７０歳を超えても衰えを感じさせない往年の活躍を彷彿させる先輩方のプレーを見て、バスケットボールを楽しめる健康体を維持していくことと、一緒に楽しむ仲間の輪を広げていくことが何よりも若さの秘訣だと再認識しました。

毎年撮影していただく写真も、ユニフォームが着られなくなることのないように体型を維持し、口角をグッと上げてほうれい線が目立たないようにビッグスマイルで写していただきましたので、皆様テンダースの写真にご注目くださいませ。

今年はもう一つのメインイベントである懇親会に参加ができなかったため、来年代々木第二体育館が改修工事になると大会はどのようになるのか情報を得ることができませんでした。一年一年確実に歳を重ねることで工事が終わったころに、同じように走れるのか不安ではありますが、また皆様とコートでお会いできることを楽しみに、明日からまた仕事に家事に介護に、そしてバスケットのトレーニングにと手を抜かずに励みたいと思います。

最後に代々木第二体育館を借りて下さり、大会運営にご尽力くださいましたバスケットボール振興会の皆様に感謝申し上げます。

千　　葉

会員	氏　　名	年齢
○	草　野　晴　美	64
○	安　楽　千　枝	64
○	森　　由美子	63
○	鈴　木　マキ子	62
	小　縣　伸　子	62
	三　浦　多津子	61
	本　郷　美　代	60
○	渋　谷　美由紀	58
	高　井　文　子	57
	西成田　美　雪	57
○	光　野　えり子	55
	池　田　あずさ	54
	堀　内　文　子	54
	大和田　千　秋	53

大和田　千秋

今回でプレーヤーとしては３回目の参加です。その前、何回かは審判として参加させていただいてました。

初めてこの大会に参加したときは、代々木第二体育館でこんな楽しく素敵なバスケットが行われているのかと、とても驚きでした。

男性も女性も楽しそうだけど、ゲームは真剣でメッチャ熱くなって若者たちにも負けず劣らずの大熱戦！！審判するのも怖いくらいでした（笑）。

年齢に達してプレーヤーで参加できるようになったときは、やっと仲間に入れてもらえたと、とても嬉しかったです。普段のママさん大会とはひと味違う・・自由な感じ。それに今年もまた会えたなと安心する他県の皆さんとのゲームももちろん楽しみです！が、ゲーム間も少年のように熱く（熱くなり過ぎてる方もチラホラ）プレーする男性陣のゲーム

を見るのも、終わってからの飲み会も全部楽しみです。
　声をかけていただいた渋谷さんに大感謝。振興会の皆さんにも感謝。そして皆さんが元気で毎年お会いできますように！

シルバーキッズレディース

会員	氏　　名	年齢
	大　平　和　子	78
○	西　村　英　子	75
	久　田　　修	70
	白　石　賀代子	68
○	松　岡　英　子	67
	中　田　光　枝	66
○	松　田　陽　子	64
○	奥　田　有美子	64
○	黒　川　純　子	62
	村　尾　早　苗	59
	吉　岡　裕　子	59
	佐　分　恵　子	58
	奥　田　章　子	55
	高　麗　郁　子	55
	田　所　由美子	

奥田　章子

　私がシルバーキッズレディースに参加させていただくようになったのが、丁度５０歳になって子育ても落ち着き、そろそろ隠居生活を・・・と考えていた頃でした。
　偶然、シルバーキッズを知り参加させていただいたのですが、そこでは私よりちょっとやそっとではない、もの凄く年上の方達が跳んで走って転んで笑って、真剣にバスケットをされている姿を見て、驚きと共に私の心にエネルギーが湧いてくるのを感じました。
　今では仲間に加えてもらい、バスケットだけでなく練習の後にお酒を飲んで沢山の先輩たちと話す時間もとても楽しみです。
　先日先輩が「代々木第二体育館で試合をすると何かしら成長して帰って来られる」と言われていました。確かに代々木第二体育館に入るとたくさんの方たちのバスケットへの思いを感じ、身が引き締まります。そんな神聖な場所で試合をさせていただき、いつもは長く感じる試合が夢中で、あっという間に終わってしまいました。結果は２敗で、私の成長も定かではありませんが、とても貴重で幸せな時間を過ごすことができ、皆様に感謝しています。
　これからも一生隠居せず、バスケットウーマンとして成長していけるよう努力していきたいと思います。

長野クラブシニア

会員	氏　　名	年齢
○	白　谷　慶　子	69
	長谷川　陽　子	68
	小　澤　良　子	62
	太　田　正　子	62
○	高　橋　ひろみ	62
	丸　田　令　子	60
	佐　藤　由起子	55
	丸　山　千　夏	54
○	塩　沢　千寿留	53
○	渡　辺　法　子	52
	春　日　佳　実	52
	倉　島　さゆり	52

倉島　さゆり

私は、今回初めて「全国シニア交歓大会 in YOYOGI」に出場させていただきました。

東京オリンピック等数々の大会が開催されたこの代々木第二体育館に来たのも初めてです。青く縁取るコートを観客席が囲みその一体感に感動と緊張でテンションが上がります。

私達、長野クラブシニアは、千葉チームとシルバーキッズレディースチームと対戦し二勝しました。我がチームのバスケットボールへの思いは熱く、ルーズボールはとことん追います。

そして持ったら離さない！思わず審判員も「すげーなー」と漏らすほど。最後には「ご苦労様」と労い？のお言葉もいただきました。

日頃は、家庭婦人の大会でほぼ女性しかいないコートで試合をしていますが、この大会は熟年の男性の方々がいらっしゃりその熱気には圧倒されました。以前からこの大会に参加されている方からは聞いておりましたが、えっ？本当に７０才以上？スリーポイントも決めてる！凄い！衝撃です。

今回、未熟者の私が審判をさせていただいたのですが、試合前に「３秒とかトラベリングは大目に見た方いいでしょうか」とお聞きした自分が恥ずかしくなるほど、しっかりストップしているし動きも機敏です。審判のジャッジの方が怪しかったのが恥ずかしいです。この代々木の体育館で審判までさせていただいて、本当に貴重な経験をさせていただきましいた。

いくつになっても変わらない、バスケットボールを愛して止まない、皆さんのパワーと満面の笑顔！。本当に素敵です。次の日？どんな筋肉痛になろうとも体を動かせる喜びは何物にも変えられない。いつ何が起こるか分からないこの世の中、今夢中になれる物があってそれが出来る幸せを感じます。来年も頑張ろう‼　皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

［あとがき］

大会終了後、渋谷駅近くのヴェントゥーノで開催された懇親会は、渡辺理事長の挨拶に続いて参加チームの紹介など、昼間のファイトとは変って和やかな交流の場となった。

代々木第二体育館の耐震工事が予定されている来年は、節目の１０回目を迎えることもあり、代々木に近いオリンピック記念青少年総合センター体育館に於いて開催する予定である。最新の情報によれば、代々木第二体育館の工事開始が７月からとのこと、運がよければ代々木第二体育館での開催ができるかもしれない。

中学生初心者向け定例クリニック開催

［総務部・普及部］

本年５月８日(日) に世田谷区で、また５月２２日(日) には京都市で、地元中体連が主催し当会が応援して行う中学生初心者向けクリニック「シュートを上手くなろう」が例年通り開催されたので、以下に報告する。

本クリニックは、５年前に世田谷区中体連バスケットボール部専門委員の先生方のご理解とご協力を得てモデル事業として開始、一昨年からは当会会員で京都在住の藤野英雄氏のご協力も得て京都市でも開催されている。

その狙いは、中学入学後、初めてバスケットボールを始めた生徒が、シュートの面白味を体感し、３年間、部活を続けて貰うことにある。本クリニックでは最後に、参加生徒各自に文武両道の大切さを理解して貰うためのペーパーを手渡している。とりわけ、英語はこれからの日本のバスケットボール界を支えていく人材、特に英語圏への留学を志す生徒にとっては必須科目であり、バスケットボールがハビット・スポーツといわれるように英語も毎日、慣れ親しむことが肝要。少しでもお役に立てばと考え、バスケットボールで日常的に使われている英単語や英文を記載したペーパーも手渡している。本クリニックと同趣旨のクリニックが全国各地に拡がることを切に願う次第である。

また、世田谷区クリニック当日、午前の部をご覧頂いた本会会員の桑原信氏から以下のコメントを頂いている。

・中学生では学校以外で指導を受ける機会は少ないと思われるので、このような実技練習は大変勉強になったのではないか。
・模範演技を間近で見ることで、良いイメージを脳にインプットできる。
・他校の生徒や選手のプレーを見ることで、自分や自校のレベルや不足部分が分かる。
・時間的な制約もあるが、もっと汗をかくドリルがあってもよいのでは。

世田谷区クリニック

女子５校３１名、男子４校２８名の参加者を得て、午前は女子の部として、副会長の従野明宏氏、会員の桑田健秀氏、及び元エバラヴイッキーズの水澤春奈氏に講師を委嘱。午後は男子の部として、従野氏とともに会員の篠辺和宏氏に講師を委嘱してそれぞれ約２時間半､「シュートを上手くなろう」のテーマのもと、クリニックを実施した。

なお、本年も東京海上日動ビッグブルーから現役選手４名をデモンストレーターとして派遣頂いた。謝意を表したい。

従野講師による座学指導

＜午前の部－女子＞

従野講師による座学指導に続き、水澤講師と桑田講師による技術クリニックが実施された。

従野講師による座学指導では、バスケットボールに取り組む際の基本的な心構えや考え方についての講話と、チームを勝利に導くためのセオリーについての分かり易い説明があった。詳細は 2013 年 11 月発行プラザ６０号をご参照頂きたい。

水澤講師

・７－８人が一つの輪になって右・左周に移動して、アイスブレーキングの意味合いと、一人が間違うと他のメンバーに迷惑がかかることを体感
・ボールのハンドリング、キャッチそしてドリブルの基礎を練習

水澤講師による基礎ドリル指導

桑田講師

○フリースローレーンからシュート練習して下記留意点を把握させる。

・どういうフォーム、投げ方が一番シュートの確率が高くなるかを意識する。
・ボールを中心に腕と肩で正三角形を作るイメージと手は親指と人差し指で「ハ」の字を作るイメージで、手のひらはボールにつけない。つま先はゴールに向けて、上半身は少し前傾でつま先に重心を。そして足の力が正しく腕に伝わることを意識して、少しずつ体で覚えてほしい。
・シュートはバスケットの醍醐味。正しいフォームを覚え、必ず決めるつもりで打つ。
・シュート上達にはボールのつかみ方、ボールの位置、足の使い方が大事。
そうかなと気づいたことを思い出して明日からの練習で実践してほしい。

桑田講師によるシュート実践指導

＜午後の部の男子＞

従野講師による前記午前の部と同様の座学指導に続き、篠辺講師による技術クリニックが実施された。

篠辺講師

○生徒間の競争要素も加味しながら、フリースローレーンとペイントエリア内からのシュートドリルを繰り返し、下記留意点を把握させる。

・バスケットボールでは集中力が大切。人の云うことを何度も聴くことで瞬時にできるようになる。

・シュートを上手くなるには当たり前のことだが、ボールをまっすぐに投げること、これが意外と難しい。あとは距離感。次にアーチの角度、これを考えずに直線的に投げてしまうことが多いが、自分で習得して、ショットの精度を上げていくほかない。

篠辺講師によるシュート実践指導

＜結びに＞

午前の女子の部、桑田氏の推薦で、今回初めて水澤氏にも講師をお願いしたが、随所に女性らしいきめ細かな配慮をちりばめ、初心者にも取り組み易く、かつ楽しい内容であり、女子生徒の笑顔が端的にそれを物語っていた。

午後の男子の部では、同じく初めて中央大学―日本鋼管でシューターとして活躍された篠辺氏に講師をお願いした。初心者にも分かり易く、かつゲーム感覚を取り入れた楽しい内容で、男子生徒に好評であった。

今回も世田谷学園の古見先生はじめ、世田谷区中体連バスケットボールの先生方のご理解とご協力を得、振興会として協力させて頂いた。当日は、５校から延べ８人の先生方にも生徒さんの引率でご協力頂いた。関係頂いた先生方には本誌面を借りて厚くお礼申し上げたい。

京都市クリニック

女子２校２４名、男子２校２０名、計４４名の参加者を得て、当会理事の結城昭二氏により約２時間半、「シュートを上手くなろう」とのテーマのもとクリニックを実施した。本年も、地元の京都教育大学の男子選手２名の方々にデモンストレーターとしてお手伝い頂いた。これに謝意を表したい。

結城講師によるクリニックには、総論・理論編及び実践編があるが、詳細は前回と同様であり、2015 年８月発行プラザ６７号をご参照頂きたい。

結城講師による実践指導

＜結びに＞

京都市での開催は３回目であるが、今回も当会会員で京都市在住の藤野英雄氏、京都府中体連専門部委員長で龍谷大学付属平安中学校教諭の岩崎広行先生には大変お世話になった。又、当日は３校から３名の先生方にも生徒さんの引率でご協力頂いた。誌面を借りて厚くお礼申し上げたい。

［文責 蒲田］

人物抄

阿部　敏一郎　さん

阿部さんは、大正１２年山形県寒河江のお生まれで現在９２歳、かなりご高齢なので取材が大丈夫かなと少々心配しながら、お住まいの山形市のお家をお尋ねしたが、そこには心配ご無用の阿部さんが大変お元気な姿でおいでになった。

阿部さんの現在のお住まいは、娘婿である遠藤前五輪相のお宅である。議員になると東京と地元を行き来して大変多忙になることは衆知されているが、阿部さんのお宅もほかならず、娘さんである遠藤夫人は、日頃、山形と東京で半々くらいの交互生活だそうである。

それゆえ、阿部さんは議員の留守宅で留守番役をされ、訪ねてくる地元の方々との対応に出られることもしばしばだとか。

こんな山形の阿部さんが、なぜ東京でバスケット関係の業務を数多くこなされていたのか不思議に思ったので訪ねてみると、小学生の頃、父親の仕事の関係で一家そろって上京し、東京赤羽に住居を構えていたそうである。

バスケットを始められたのは、旧制本郷中学のころだったが、当時、日本は戦争に次ぐ戦争で大変な世の中だったらしい。本郷中学はそのころから体育館をもっており、この頃体育館を持っていた中学は非常に少なく、体育館でできるバスケットに取り組まれたという。

本郷中学卒業後は、明治大学付属専門学校へ入学され、法律関係の学業に励まれるが、戦争が激しくなり、３年生になった９月に学徒動員命令が届き兵役となる。

この時の学徒動員命令は、本籍地である山形に届いたので山形へ帰ったが、現在のような交通の便はなかったので、山形へ帰って軍隊へ入隊したのは１１月になっていた。

陸軍山形連隊に入隊した阿部さんは、学歴などからか幹部候補生として士官学校へ行かされ、そこで将校への昇進候補者試験に合格する。

士官学校を卒業して山形へ帰った１週間後、今度は三陸地方の沿岸警備隊所属となり、八戸にある尻内陣地に配属されるが、戦火が厳しくなるにつれ軍隊でも配属先が次々と変わり、今度は東京防備のための機関砲部隊の幹部として東京第二師団所属となる。そのころの宿営地は鶴見の総持寺だったが、隊長の阿部さんは総持寺の広い部屋に一人で入らされ、部屋の外には警備兵が立っていたという。

やがて、終戦となって旧制度による学制が大幅に変わり、それまでの旧制高校は大学として戦後の再出発となる。学業心旺盛だった阿部さんは、とりあえず、中央大学の入学試験を受けて合格し、中央大学で学業に励み始めるが、最初に進学した専門高校が明治大学付属だったことから、あるとき明治へ行ってみる。

その明治大学で偶然山形の後輩島崎氏と出会い、ぜひとも明治へ来ないかと誘われ、更には明治大学の先生に引き合わされる。いろいろと面倒をみてもらった阿部さんは、それならばと今度は明治大学の試験を受けてこちらも合格、途中からの編入を嫌って１年生からの入学として扱ってもらう。

学制の大幅な変更というか改革があったこの頃は、３年生よりも１年生が年上だったことなど、当たり前であった。

明治大学では、中学の時に取り組んだバスケットボール部に入り練習に参加したが、焼け残った体育館は教室となり、練習は屋外コートでやるしかなかった。どの大学でもバスケット部の復活が細々だったせいか、大学同士の試合を行うほど人数が集まらず、とりあえず集まった人たち同士でチームを作って試合をやっていた。

しばらくして、神田駿河台の明治大学４階にある体育館がバスケットコートとして使えるようになったころ、年上だった阿部さんはバスケットだけでなく明治大学体育会なる組織を創設するよう大学側からとりまとめの依頼を受ける。

大学体育会創設に尽力したおかげで、４階の体育館はバスケット部が優先して自由に使えることとなり、この時から阿部さんのバスケット熱に火が付き、大学内外で活躍するようになる。各大学の歴史誌や諸先輩の話から勘案すると、新制大学が動き始めたこの頃は、学生が中心となっていろいろな組織を作り、運営していたことが見えてくる。

やがて各大学ともバスケット部が復活し、試合もまともに行えるようになると、阿部さんは率先して明治大学体育館提供の便宜を図る。体育館が殆どないか、あるいは焼けて使えなかった東京都内で、多少狭く、コーナーに梁があるためサイドからのシュートは困難を極めた体育館だったが、公式戦にもよく利用され、神田の国民体育館の使用が制限されたときなど、一時は全日本選手権の会場になったこともあった。

一方、ばらばらだった各大学のバスケット部が復活してきた昭和２５年、関東大学バスケットボール連盟の再編成について、阿部さんをはじめ日体大の稲垣さん、青山学院大の並木さん、早稲田大の日比野さんらと集まって学連発展の道を開くが、その殆どがまだ学生でいわゆる学生委員としての活動であった。

苦労して復活した関東大学連盟であったが、昭和５１年(1976)、これまでの連盟とは別に東京１０大学連盟が誕生する。当時はいろいろな考え方があっての別連盟だったようだが、阿部さんもこれには参ったという。突然始まってしまった東京１０大学連盟を、すぐにも解散をと言っても駄目だろうから、仕方なくしばらく時間を置いてみようということにしたらしい。阿部さんを含む当時の諸先輩の努力で、この東京１０大学連盟も６年程で解散し、現在の関東大学連盟に統一されている。

昭和２４年から明治大学の監督を４年間務められた阿部さんは、昭和５０年(1975)正月に開催された全日本総合選手権大会で、学連推薦の明治大学が学生として久しぶりに優勝したことが大変嬉しかったと振り返る。地方出身の学生を東京赤羽の自宅に寝泊まりさせて大学に通わせていたこともあった阿部さんには、大きなご褒美だったようである。

長年関東大学連盟で活躍された阿部さんは、昭和４３年(1968)から、日本協会理事として活躍の場が広がり、国体委員長（部長）として、２２年間の長きにわたり毎年開催される国体の開催指導に当たられた。そして、昭和５７年(1992)に出身地で開催された山形国体の時期をもって、阿部さんは日本協会理事を終えられている。

関東大学連盟理事や、日本協会理事、山形県における諸役員など、長きにわたってバスケットボール界の発展に寄与された功績に対して、平成２２年には日本協会功労賞を授与されているが、そのことは当然といってもよいだろう。

最近、社会の高齢化とともに、あちこちでシニアによるバスケットボール競技が盛んに行われている。昔の若い人中心のバスケットが、健康的な意味も含めて高齢者にも広がり、生涯スポーツに発展しつつあることは喜ばしい限りである。

そのシニアバスケットボールの草分け的大会に「八幡カップ」がある。第１回目に開催されたのが山形県酒田市で、その陰にはバスケットボールに対する阿部さんの熱情がこもっているのである。

平成のバブル期、日本全国を元気にしようと、時の政府が各地方自治体ごとに１億円ずつを配布したことをご存知の方も多いだろう。

このとき、山形県寒河江市八幡町の後藤町長が阿部さんにある相談を持ちかけた。「配られた１億円を使って何をしたらいいだべか？」がその趣旨だったが、当時一般的には住民にその町でのみ使える金券を配ったり、小さな観光施設を整備したりと使い道は様々であった。

相談を持ち掛けられた阿部さんは、すぐにバスケットのためにそれを使うことを勧めたという。金券は住民が使ってしまえば忘れられるであろうし、中途半端な観光施設はやがて飽きられてしまうからと。

阿部さんが提案したのが、シニアバスケットボール大会であった。各地で始まったばかりのシニアバスケットの大会に八幡町の冠を付け、この大会が続く限り「八幡」の二文字が生きれば、永遠に八幡町のことが取りざたされるはずであるから、「八幡カップ」と名付けた大会をやろうと。

体育館の関係から第１回目の八幡カップは平成７年(1995)に山形県酒田市で開催されたが、その賞品にと、八幡町の後藤町長が米１俵を車に積んで会場へ運び、参加者の目をひいたことは有名である。

その後、毎年開催されるシニアバスケットボール大会「八幡カップ」は、やがて全国持ち回りとなって沖縄や北海道でも開催され、今年平成２８年に２１回を数え、八幡町町長が提供する米１俵の賞品は現在でも続いているという。

「山形に住んではいるものの東京人扱いでねぇ」と地元で一目置かれている存在の阿部さんが住んでいる家の庭を見ると、なんとそこにはバスケットのゴールが置かれていた。

そのゴールの使い道を尋ねると、最初はご自分、それから孫たち、やがては遠藤前五輪相がシュートに取り組み、随分と役に立っているらしい。家では孫たちから送られたという写真のマグカップでお茶をのんでおられた。

阿部さんは「歳を重ねたのでそろそろ考えなければ」と自分のお墓をすでに作っているそうだが、そのお墓の両脇にはバスケットのボールを配置し、墓前にはバスケットコートの一部となるラインを引いてあるデザインという。

阿部さんがバスケットをこよなく愛し、その発展に込めた熱情が伝わってきた。

会員だより

あれから５０年

吉田　俊幸

1964 年 10 月 10 日、東京の空は真っ青。私は池袋でクリーニング店を営んでいた我が家の３階洗濯物干場から上空を見上げていた。５機の自衛隊戦闘機が色鮮やかに五輪を描いた。その光景が今も瞼の裏に焼き付いている。

その年、私は高校１年生。前年、高校からバスケットボールを始めた４歳年上の兄に連れられ、横浜でオリンピックのバスケットボール予選を観戦した。どの試合も接戦に次ぐ接戦で、１点差や延長戦で息もつかせぬ好ゲームだった。

ドリブルのスピード、正確なジャンプシュート、攻守の切替えの速さに度肝を抜かれ、一度でバスケットボールの虜になった。

そのころ、バスケット少年の憧れのスターは諸山文彦さんだった。華麗なジャンプシュート、身体能力の優れたダンクシュートなど、まさに神様でした。

私はクラスで一番背が低く、フリースローがゴールに届かなかった。いつかバスケットボールを続けて背を伸ばし、諸山さんのように宙に舞い、バスケットボールの聖地代々木第二体育館でダンクシュートを決めてみたいと夢を描いていた。

夢を追い続けて、中学から始めたバスケットボールを、高校、大学と続け大学時代に関東大学トーナメント戦やリーグ入れ替え戦で、憧れの代々木第二体育館でプレーすることができた。しかし、身長は伸びずいまだにダンクシュートは儚い夢のまた夢である。

1976 年社会人となり、もうそろそろバスケットボールは辞めようかなと思っていたところ、大学の後輩阿部哲郎君から「駄馬で一緒にやってもらえませんか？東京の世田谷区民大会に参加しているんですが、人数が足りなくて」と誘われ、気が付けばドップリと“駄馬”に入り浸り、バスケットボールから足抜けできない前科者となった。

ここでちょっと一服、“駄馬”とは東京世田谷区烏山中学校バスケットボール部ＯＢが元祖である。1966 年、日本体育大学の本堂元則先生が体育教師として着任、１年間体育バスケットボール部の顧問となり指導した。このときチームは弱かったものの何故かまとまっていた。

３年生に現在振興会普及部長をやっている“橋龍”こと橋田龍太郎君がいた。２年生には駄馬のＴシャツに描かれているマスコットキャラクターを作出した中村真君、１年生にその後駄馬の中核となる阿部哲郎君、神山毅君、大沼正夫君、藤田覚史君等が入り、本堂先生の指導のもと、バスケットボールに夢中になった。

1969 年に烏山中学校を卒業した仲間を中心に、烏中ＯＢというチーム名で世田谷区に登録。２年後、チーム名を藤田覚史君の愛称にちなんで“駄馬”と命名した。

駄馬のモットーは、「楽しくバスケットボールをやっていい汗流して、うまい酒を呑む。負けても挫けず諦めず、生涯現役を目標に、老いも若きも男女国籍も問わず、バスケットボールが好きなら上手下手関係なく、来る人拒まず去る人追わず、バスケ友達の友達は皆

友達、バスケットボールを通して仲間の輪を広げよう」である。

あれから３０年、1998 年に駄馬は世田谷区体育協会より優良団体として表彰された。これは３０年間負け続けながらも諦めず、「いい加減に辞めたら」など家族からの忠告を激励と勘違いして、相手チームにひたすら勝利を献上したご褒美である。

あれから４０年、駄馬は無謀にも埼玉の鷺澤さんたちが立ち上げた東松山市での全国シニアバスケットボール大会に参戦した。世田谷区、渋谷区の体育館を取り、土、日曜日に練習と反省会（飲み会？）。千葉、山梨、新潟での合宿と、腕を磨いたつもりが結果は無残。赤子の手をひねられるがごとく、埼玉、千葉、神奈川の老舗チームにあしらわれた。

その縁で、2009 年に菅平高原で、駄馬４０周年記念シニアバスケット交歓大会に参加を呼びかけ、埼玉、千葉、神奈川などのチームが大集合。交流試合で汗を流し、交歓会では千葉の渡辺時男さんの呼びかけで、関東選抜チームの旗揚げが提案された。揃いのＴシャツを着て全国大会へ飛び立とうと、ホテルの酒が空になるほど盛り上がって大会は大成功。

あれから５０年、駄馬は関東選抜チームのメンバーとして誘い誘われ、北は北海道、南は沖縄まで、全国の諸先輩方や仲間と交流を深めている。また振興会を通して“橋龍”が三顧の礼で、教育大、熊谷組で活躍された山本治さんをプレーイングマネージャーとしてお迎えすることができた。

山本さんの全日本バスケットの歴史や裏話は、その時そこにいた人にしか語れない興味深いものである。山本治さんというバックボーンが入った駄馬は、徐々にサラブレッドと競う籠球魂が育ってくるかも？

あれから５５年、あと３年で 2019 年。クラブチーム駄馬は５０周年を迎える。２度目の東京オリンピック前年である。何はなくても駄馬は駄馬らしく、丈夫で長持ち、全国のバスケットボールを愛する諸先輩の尻を追い続けていきたいと思う。

［駄馬代表］

会員だより

今日までそして明日から

田宮　秩

昨年６０歳を迎え、セブンブラザーズの一員として全国シニア交歓大会に参加した。若い頃は、まさか６０歳を過ぎてまで、ましてや、代々木第二体育館で試合ができるなどとは夢にも思わなかった。体格に恵まれているわけでもない、運動能力もせいぜい人並みの私がここまでバスケットボールを続けてこられたのは望外の喜びである。このたび会員だよりに寄稿する機会を得た。これを機に、これまでのバスケットボール経験を振り返ってみたい。

２人の指導者

私は高校１年からバスケットボールを始めた。１年生の頃、チームは初心者の私を入れて６名。試合中にファウルを重ねたチームメートと交代すると、その後のスコアブックは空白になっていた。そんなチームを２年生の時から指導されたのが平井先生であった。先生は当時２５歳、少し年齢の離れた兄貴のような存在で、クリスマスイブに新婚家庭に皆で泊まり込んだのも懐かしい思い出である。

大学では高木先輩に２年間指導いただいた。「大学でうまくなる」をモットーに基礎知識の理解と実践がチームに求められた。高木コーチの指導がなければ、私は４年になっても試合に出られないままで終わっていただろう。

お二人に教わった知識や技術が私に刷り込まれていることを、いまも試合や練習で実感している。

クラブチーム

昭和５６年(1981)、社会人３年目の私は東京勤務となった。社会人になってからの２年間は工場に勤務していたので、厚生施設として体育館があり、バスケットボール部もあった。しかし、東京には会社の体育館はないし、バスケットボール部もなかった。そんなときに会社の先輩に紹介されたのがクラブチームだった。練習に参加してみると、なんと４０歳代のプレーヤーがコート狭しと走り回っているではないか。今ではそんな光景は珍しくもないが、当時はバスケットボールができるのは３０歳ぐらいまでというのが世の中の常識ではなかっただろうか。諸先輩の活躍される姿を見て、私も４０歳ぐらいまでプレーを続けたいなあと考えていた。いま思えば、私はずっとその人たちの背中を追ってきたことになる。

関東実業団リーグ

クラブチームのメンバーとして区民大会などに出ていたが、昭和５８年(1983)に、会社でチームを立ち上げて関東実業団連盟に加盟した。９部からスタートし、途中で多少の足

踏みはあったものの、平成２年(1990)には４部に昇格した。その後も４部、５部でリーグ戦を戦ってきた。

が、徐々に世代交代が進まなくなり、毎年チームの平均年齢が着実に１歳ずつあがるようになってきた。ついに、平成２０年(2008)を最後に関東実業団連盟から脱退することになった。

「若者のスポーツ離れ」が取り沙汰されて久しい。「社会人になってまでハードなスポーツはやりたくない」という人もいた。その一方、メンバーが固定化していく過程で、私たちも排他的な雰囲気を醸し出していたのかもしれない。どんな組織でも長く続くと澱んでくる。組織の活性化、更なる継続のためには新陳代謝が必要だとあらためて認識したしだいである。

現在、そしてこれから

現在、私の主な練習場所はイーストサンズというクラブチームである。イーストサンズの練習は公営の体育館を利用している。昨今は抽選の倍率も高くなり、体育館の確保に苦労しているようだ。最近また新たに利用可能な施設を探していると聞く。参加メンバーは、２０代から６０代と幅広い。かつて参加者が少ないときには、延々と３対３をやり続けたようなこともあった。しかし、ここ数年は幹事のきめ細かな手配により常時２０名程度の参加を得ている。インターネットの活用によって、体育館の申込みもメンバーへの連絡も、以前に比べると便利になってきた。とは言うものの、クラブチームを運営するのは、やはり苦労の多いことである。

私は幸いにも多くの人のご厚意に支えられて、これまでバスケットボールを続ける環境を得ることができた。アマチュアに引退はないという。しかも、６１歳はシニアの世界では若手に分類されるだろう。これからも楽しくバスケットボールを続けていきたい。

［７ブラザーズメンバー］

バスケットボール湘南だより（その 15）

◇◇バスケット界の中高部活動はどうなっているか？◇◇

中瀬　達雄

本稿が会員の目に触れている頃には、リオ五輪のメダル数が確定し、あるいは「部活動を考えよう」なんて話は、吹っ飛んでしまっているかも知れないが・・。

◆中高生のバスケットシーズン終わる◆

▽中学校から高校への８ヶ月空白

平塚市の中学校大会は７月２日に始まり、半分近くの中学生は２年少々の部活動を終えた。高校の５月中旬よりは長かったが、来春４月の高校入学までコートから離れてしまうのは、いかがなものだろうか。ブロック大会を経て、県大会、関東大会、全国大会と続くチーム・選手は、ほんの一つまみの人たちだけで、平塚のチームは県大会止まりであった。

学校教育の一環としての部活動は、高校受験体制へ繋げるパターンとして成り立っているのだろう。しかし、高校でもバスケットをプレイしようと考えている生徒にとっては、何とも勿体ない８ヶ月の空白期間である。ここでも校外活動が盛んな水泳・体操・柔道などの個人種目や野球・サッカーに後れを取ってしまう。

▽動員力の高校チームも全国では勝てない

平塚での開催が定例となった県大会決勝日は、2000 人収容の観覧席は立ち見まで出る超満員の中での対戦となった。年に 10 ゲームほど開催される男女のトップゲーム、プロチームもとても追いつかない動員力である。

男子決勝リーグ４チームは全部私立高校だが、女子は４チームとも県立高校の組合せとなった。男・法政二、女・旭の優勝で終わったが、８月の全国大会では、男・桐光が１回戦でシードの福岡大壕を破ってベスト８まで勝ち進んだものの、他はいずれも１、２回戦で敗退した。

ミニバスチーム以下、日本協会登録日本一の神奈川県の筈だが、その成績は必ずしも登録数のようにはいかないようである。それ以前に、ミニバスの有望選手が東京の中学校へ進学したとか、オールスター中学生が他県へ出て行ってしまうとか、関係者の嘆き節だけが聞こえてくる。「大きな目で日本全体のために貢献できていれば・・・」との声も淋しいものである。

◆世の中は部活動をどう見ているか◆

▽文科省の「部活動に休養日を」キャンペーン

６月３日、新聞各紙は、文科省が中高校部活動休養日設定の方針を報じた。学校教育の中での部活動の位置づけが必ずしも明確でない中で、いまさらの感もあるが、近く各県へ出されると言う具体的な指針が注目される。

この動きに関連したのか、７月１日に朝日新聞朝刊が「部活動の実態」として、１面を使った特集記事が掲載された。猛練習活動の要因を保護者と指導教員の双方に押し付け合っている現状を紹介し、部活動に対する発想を変える必要性を訴えていた。プロ選手を目指す過程と教育活動の一環との考え、これが噛み合っていないのが実情ではあるまいか。

▽ＮＨＫではきびしく「ブラック部活動」！！

８月１日には、ＮＨＫがクローズアップ現代のテーマとして中高校の部活動を取り上げた。前項で取り上げた長時間指導、更には、指導者の暴力・暴言などが語られ、顧問の指導力不足、根性論過多なども話題になっていた。その中で、為末氏の「全国優勝を目指すのはごく一部で、大部分の部員に楽しい充実感を持てる場を」の言葉が印象的だった。

◆オリンピック目標だけがバスケット活動か◆

▽ミニバスでもナショナルレベル活動か

新体制ＪＢＡが今年から打ち出したものに「ジュニアユース育成キャンプ」がある。簡単に言えば、全日本選抜ミニチ-ムをつくり、将来の代表選手候補を探し出そうというもので、親の身長まで調べるそうである。

ＪＯＣ傘下のＪＢＡとして、オリンピックでのメダル確保のためには当然の施策ではあろうが、100 万人のバスケットプレイヤーを束ねる立場のＪＢＡとしては如何なものだろうか。ミニバスは、学校スポーツ活動ではないと言っても、小中学生さえも楽しいバスケット、楽しいスポーツを目指してはダメと言うことなのだろうか。

▽メダルを支えているのは非部活動選手では

良く考えてみると、オリンピックメダル選手は、ほとんど学校部活動でないところから輩出している。それも大部分が、体操、柔道、水泳、テニス、スキー等々と個人種目であり、学校部活動での強化によるものではない。

たしかに、個人スポーツでメダルに繋がるような種目は、校外活動であるクラブ組織での育成・強化が殆どである。チームスポーツの中で、同じように学校部活動に頼らず発展しているのは、野球であり、近年のサッカーであろう。サッカー界人材が取り仕切る最近のＪＢＡは、この方向を目指しているようだが、広場があれば練習できる野球、サッカーに比べ、体育館が必要なバスケットが同じようにできるとは思えないが・・・。

▽ただ楽しむだけのバスケットボール・プレイヤーの居所は

小学生でミニバスを楽しみ、中学生・高校生の部活動で団体活動の面白さを知り、そこから先の生涯の友人に出会う。中には、ママさんバスケ、おじさんバスケをそこそこ楽しんだ後、自分の子供にミニバスケットをやらせてみたい、指導もしてみたいとなる。

こういったバスケット活動サイクルが健全なバスケット生活だと思うが､「お楽しみ部活は切り捨て！」はこの流れに逆行することになる。お役人が推奨する「生涯スポーツ」とは、こういうことではいけないのだろうか。

［平塚バスケットボール振興会代表、元日本協会・日本実業団連盟理事］

各団体の新役員

［編集部］

日本協会とＢリーグでは、今年度、役員改選が行われ、各々下記の通りとなって新しい体制でのスタートが切られた。なお、日本協会においては、これまでの名誉役員（顧問、参与など）に定年制が適用となり、７５歳以上の名誉役員は全員定年退役となった。

公益財団法人日本バスケットボール協会（ＪＢＡ）

役　職	氏　名	所　属　等
会　　長	三　屋　裕　子	日本バスケットボール協会 副会長
副 会 長	児　玉　幸　長	京都府バスケットボール協会 会長
〃	斎　藤　聖　美	バスケットボール女子日本リーグ機構 会長
〃	大　河　正　明	Ｂリーグ チェアマン
専務理事 事務総長	田　中　道　博	日本バスケットボール協会 ガバナンス改革委員長
理　　事	庄　司　義　明	日本実業団バスケットボール連盟 副会長
〃	門　川　浩　人	愛知県バスケットボール協会 専務理事
〃	日　越　延　利	沖縄県バスケットボール協会 専務理事
〃	山　本　一　郎	ＪＸホールディングス㈱ 常務執行役員
〃	大　野　健　男	千葉県バスケットボール協会 専務理事
〃	山　本　晃　宏	日本バスケットボール協会 事務総長補佐
〃	境　田　正　樹	日本バスケットボール協会 監事
〃	間　野　義　之	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
〃	藤　原　　修	岩手県バスケットボール協会 専務理事
〃	原　田　裕　花	スポーツコメンテーター
〃	吉　田　長　寿	日本バスケットボールリーグ(B3 リーグ) 専務理事
〃	東　野　智　弥	日本バスケットボール協会 技術委員長
〃	葦　原　一　正	Ｂリーグ理事／事務局長／事業本部長
監　　事	中　森　真紀子	公認会計士
〃	須　永　　功	税理士

公益社団法人ジャパン・プロフェショナル・バスケットボールリーグ（Ｂリーグ）

役　職	氏　名	所　属　等
チェアマン	大　河　正　明	日本バスケットボール協会 副会長
理　　事	葦　原　一　正	Ｂリーグ 事務局長 日本バスケットボール協会 理事
〃	岡　本　依　子	日本テコンドー協会 理事
〃	片　貝　雅　彦	㈱信州スポーツスピリット 代表取締役社長
〃	木　村　達　郎	沖縄バスケットボール㈱ 代表取締役社長
〃	境　田　正　樹	日本バスケットボール協会 理事・東京大学理事 内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部 政策参与
〃	島　田　慎　二	㈱ＡＳＰＥ 代表取締役社長
〃	竹　内　美奈子	㈱ＴＭ Future 代表取締役
〃	鶴　　宏　明	江副記念財団 代表理事
〃	中　西　大　介	日本プロサッカーリーグ 常務理事
〃	中　村　彰　久	㈱仙台８９ＥＲＳ 代表取締役
〃	弘　田　充　宏	日本バスケットボール協会 事務次長
監　　事	阿　部　謙一郎	㈱フジクラ 社外取締役・公認会計士
〃	岸　　郁　子	四谷番町法律事務所 弁護士

訃　　報

小山　仁一　氏　　平成２８年３月４日　　享年　７３

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大なご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

◇会費納入のお願い

まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行　　００１００－３－３１６０３５
ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会

三菱東京ＵＦＪ銀行　神保町支店
普通預金口座　　１６８４７４３
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行　　丸の内中央支店
普通預金口座　　１００４６８７
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇秋の講演会予定

１１月に秋の講演会・交流会を予定しています。詳細は、改めてご案内します。

プラザ　こぼればなし

◇　日本協会技術委員会の東野智弥委員長が月刊バスケットボール誌９月号で「日本飛躍のカギは、フィジカル、状況判断、シュート力の育成、そしてさらなる戦略研究」と云い「2020 年の東京オリンピックで世界を驚かせるようなプレーを見せたい」との記事を寄せているが、その実現を大いに期待したい。

◇　男子日本代表チームの長谷川建志ヘッドコーチが、リオ・オリンピック男子世界最終予選終了後、「ヨーロッパは組織力も、個人の力も、アウトサイドのシュート力も全てがレベルアップしています。高さやフィジカルだけでなく、個人のディフェンス力、オフェンス力、シュート力、組織力までアジアとはレベルが違うと痛感させられました」とコメントしている。
また、女子日本代表チームの内海知秀ヘッドコーチが、リオ・オリンピック本大会でアメリカ戦を終えたとき、「ノーマークにすると必ず決めてくるアメリカはさすがでした」と言っている。順位争いで鍵となったトルコ戦の第１ピリオドでは、トルコがハーフコート内をところ狭しと走り回り、ノーマークをつくってシュートし、確実に得点していた。それに対し、日本は、動きが鈍く、相手ディフェンスに苦しみシュートを決めきれず大差をつけられ、順位決めで苦杯をなめている。
共通することは、「世界で戦うには組織力でノーマークを作り、ノーマークシュートは確実に決めるチーム作りが必須」ということ。ゲームの得点は個人のシュート力育成だけでは無理で、加えてチームとしてシュートチャンスを作る戦略も必須であろう。

◇　世界で戦う日本代表となる選手は、全員がシュート成功率の高いポイントゲッターであってもらいたい。フィジカルで勝る世界の相手に８０点の失点を覚悟すれば、日本代表チームは１試合８０点以上の得点能力が必須。是非、これを目指してほしい。

◇　日本代表チームが世界選手権大会で、体格に勝る相手国代表チームと対等に戦えるように、トップリーグをはじめとする国内チームは、ヘッドコーチや指導者が長身選手をオールラウンドで活躍できるように育成すべき。特に、学生チームは目先の勝敗に気を取られ、長身者の育成がインサイドプレー中心としており、外角のプレーがないがしろにされやすい。長身選手には、オールラウンドプレーヤーを意識して、コート全面でのシュート成功率向上を努力し、日本代表を目指すことを期待したい。

◇　アトランタ、アテネ・オリンピックに出場した選手座談会の後、懇親の機会に同席させていただいた。そこで代表チーム合宿所生活に触れてみた。盛り上がったのが「おでん」の話、普通のおでんと言えば、大根、こんにゃく、はんぺん、ちくわ、さつま揚げなどおよそ６～７個だろう。数は変わらないが選手たちのそれは大きさが倍あったそうだ。一つ一つが手作りだったことも理解できるが、合宿所の思い出で一番に出てくるおでんとはどんなものだったのか？最近でも続いているようなら見てみたい。

ＮＰＯ法人
日本バスケットボール振興会
〒１０１―００５１
東京都千代田区神田神保町１－４０
豊明ビル　３０１号室
電話／ＦＡＸ（03）3219－9311
メール　sinkokai@jbbs.jp

UVケアをしながら スキンケア効果を実感！

グリーンノート オーガニックUVミルク
内容量　30ml　/　2,800円＋税

フランス・エコサートのオーガニック認証をうけた肌にやさしい天然由来成分100%の日焼け止め乳液です。

ラーレリ　エキストラバージンオリーブオイル

内容量　250ml ～　/　980円＋税 ～

飲めるほど美味しい、極上のオリーブオイルです。地中海に面したトルコ・ラーレリ家の農園では、オリーブの実をひとつひとつ手摘みし、24時間以内に30度以下の低温（コールドプロセス製法）で搾油しています。

アロマテラピー検定　受験対策セット

単品～セットまでご用意しております

アロマテラピー検定とは、日本アロマ環境協会（AEAJ）の実施する資格認定試験です。アロマテラピーを安全に楽しむための基礎知識が身につきます。
当店では、オリジナル参考書を**無料で進呈しております。**

オーガニック商品とアロマテラピー専門店
arôme de saison
アローム ドゥ セゾン

■ ホームページ
http://www.rakuten.co.jp/aromedesaison/index.html

詳しくはインターネットにて　アロームドゥセゾン　楽天　検索

横浜中華街 皇朝点心舗

世界チャンピオンの 肉まん

1個100円（税込）

※各種お土産取扱店

楽天 ICHIBA 第1位　YAHOO! JAPAN 第2位
世界チャンピオンの肉まん　日本経済新聞 NIKKEI プラス1 なんでもランキング

皇朝レストラン

ぐるなび 食べログ 第1位　じゃらん 第2位

時間無制限！
食べ放題
120種以上 **1,990円（税込）～**
※点心飲茶

王朝（担担麺）

ランチ・コース・ドリンクも充実！

中華街初、こだわり健康坦々面！特製ワカメ練り込み麺使用の坦々麺をはじめ、お料理50種以上、麺・ご飯20種以上、お酒20種以上をご用意！

横浜中華街 店舗案内

東日本大震災　復興支援

野菜・食材だけでなく
白髪染めも安心なものを

0 化学染料ゼロ

ヘナは自然派の白髪染めです！

グリーンノート ヘナ シリーズ 各100g

ヘナ・ヘナスーパー（早染めヘナ）		オーガニータ（エコサート認証ヘナ）	
オレンジブラウン	1500円+税	ビターオレンジ・ノンカラー	1800円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン	1600円+税	サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン	2300円+税
スーパーブラウン	2200円+税	ノンカラー	1600円+税

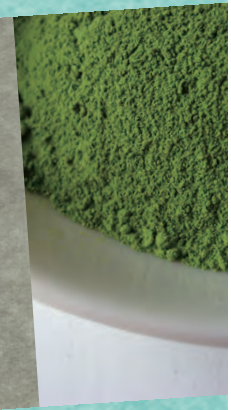
植物成分100%
お湯で溶いて塗るだけで簡単！

潤い を閉じ込めて艶やかに
コシ が出て根元から立ち上がる
ボリュームアップ
しっとり 落ち着いてまとまる

やっぱり天然が一番体にいい！人工的な美しさはもういらない！

グリーンノートのヘアケアシリーズはシリコンはもちろんのこと、石油系成分は一切使用していません。人間本来に備わる美しさを最大限に引き出すことだけを考えて自然派の研究者が作りました。

天然由来成分100%
石油系成分を一切使わない



両タイプ共通　全3色

脱ケミカル ライフ！

グリーンノート ヘアケア シリーズ

敏感肌に・洗うたびに髪質向上 自然葉（しぜんは）シャンプー		
本体	300ml	3000円+税
ミニ	30ml	400円+税

リンス不要

部分用白髪隠し ヘアカラースティック		広範囲用白髪・薄毛隠し ヘアカラーファンデーション	
2200円+税		パクトセット	3600円+税
		詰め替え用	3100円+税

製造販売元：
株式会社 グリーンノート
東京都中野区東中野2-20-13
☎03-3366-9701

詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ http://www.henna.co.jp